

相生市

西柄遺跡・宮ノ前遺跡

—一般国道2号相生有年道路事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成26（2014）年2月

兵庫県教育委員会

相生市

西柄遺跡・宮ノ前遺跡

—一般国道2号相生有年道路事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成26（2014）年2月

兵庫県教育委員会

巻頭写真図版 1



調査地遠景（北上空から）



調査地遠景（西上空から）

巻頭写真図版 2



調査地近景（東上空から）



西柄遺跡近景（南上空から）

例 言

- 1 本書は、相生市若狭野町上松に所在する西柄遺跡と、同町野々に所在する宮ノ前遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、一般国道2号相生有年道路事業に係り、国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を主体として、兵庫県立考古博物館を調査機関として実施した。
また、出土品整理は、国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を主体として、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部を調査機関として実施した。
- 3 調査の推移
(発掘作業)
確認調査 平成18年8月9日～平成18年9月4日
実施機関：兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
平成19年8月1日～平成19年8月20日
実施機関：兵庫県立考古博物館
本発掘調査 平成20年11月19日～平成21年2月13日
実施機関：兵庫県立考古博物館
工事請負：第一建設株式会社
空中写真測量委託：写測エンジニアリング株式会社
(出土品整理作業)
平成24年7月24日～平成25年3月20日
実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
平成25年6月21日～平成26年2月28日
実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
遺物写真撮影委託：株式会社 クレアチオ
- 4 本書の編集・執筆は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部 深江英憲が担当した。
- 5 本調査において出土した遺物や作成した写真・図面類は、兵庫県教育委員会（兵庫県立考古博物館）で保管している。
- 6 本書に使用した方位は国土座標（第V系）の座標北を示す。また、標高値は東京湾平均海面（T.P.）を基準とした。
(世界測地系に換算)

本文目次

| | | |
|-----------------------|--------|----|
| 第1章 調査の経緯と経過····· | (深江英憲) | 1 |
| 第1節 調査に至る経過 | | |
| 第2節 調査の概要 | | |
| 1. 西柄遺跡 | | |
| 2. 宮ノ前遺跡 | | |
| 第3節 整理作業 | | |
| 第2章 遺跡の位置と環境····· | (深江) | 5 |
| 第3章 西柄遺跡の発掘調査成果····· | (深江) | 7 |
| 第1節 遺構 | | |
| 1. 1区の調査 | | |
| 2. 2区の調査 | | |
| 3. 3区の調査 | | |
| 第2節 遺物 | | |
| 1. 1区の遺物 | | |
| 2. 2区の遺物 | | |
| 3. 3区の遺物 | | |
| 第4章 宮ノ前遺跡の発掘調査成果····· | (深江) | 13 |
| 第1節 遺構 | | |
| 第2節 遺物 | | |
| 第5章 まとめ····· | (深江) | 14 |

挿図目次

| | |
|---------------------------|----|
| 第1図 報告書掲載遺物出土トレンチ位置図····· | 2 |
| 第2図 周辺の遺跡····· | 6 |
| 第3図 出土石器····· | 12 |

表目次

| | |
|------------------|----|
| 第1表 出土遺物観察表····· | 15 |
|------------------|----|

卷頭写真図版目次

卷頭写真図版 1 調査地遠景（北上空から）
調査地遠景（西上空から）

卷頭写真図版 2 調査地近景（東上空から）
西柄遺跡近景（南上空から）

図版目次

- 図版 1 西柄遺跡調査箇所事業地内位置図
- 図版 2 宮ノ前遺跡調査箇所事業地内位置図
- 図版 3 西柄遺跡調査区位置図
- 図版 4 1区遺構平面図
- 図版 5 1区北壁断面図①
- 図版 6 1区北壁断面図②
- 図版 7 1区西壁断面図
- 図版 8 1区 P02・09～12 断面図
- 図版 9 1区 SK03 平面図・断面図
- 図版 10 1区 SK02・05～08 断面図
- 図版 11 1区 SX02・03・SD01・02・04 平面図・断面図
- 図版 12 1区 SD05～14 断面図
- 図版 13 2区遺構平面図
- 図版 14 2区南壁断面図①
- 図版 15 2区南壁断面図②・西壁断面図
- 図版 16 2区 P04～07 平面図・断面図
- 図版 17 2区 SX01・02 平面図・断面図
- 図版 18 3区遺構平面図
- 図版 19 3区西壁断面図・南壁断面図①
- 図版 20 3区南壁断面図②
- 図版 21 3区南壁断面図③・東壁断面図
- 図版 22 3区埋甕 01・P16・SD01～04 平面図・断面図
- 図版 23 宮ノ前遺跡遺構平面図
- 図版 24 南壁断面図①
- 図版 25 南壁断面図②
- 図版 26 西壁断面図
- 図版 27 出土土器①
- 図版 28 出土土器②
- 図版 29 出土金属器

写真図版目次

- 写真図版 1 西柄遺跡 1 区・2 区（上空から）
1 区・2 区全景（南東から）
- 写真図版 2 1 区全景（西から）
1 区全景（東から）
- 写真図版 3 1 区北壁（南東から）
1 区西壁（東から）
1 区北西侧柱穴群（西から）
- 写真図版 4 上左：P07 遺物出土状況（北から）
上右：P09 断面 b-b'（南から）
中左：P10 断面 c-c'（東から）
中右：P11・12 断面 d-d'（南から）
下左：P02 断面 a-a'（南から）
SK02 断面 a-a'（南西から）
SK02 断面 b-b'（西から）
- 写真図版 5 SK03 断面 A-A'（西から）
SK03 内土坑断面 B-B'（西から）
SK03 完掘状況（西から）
SK03 東半部焼土・炭化材検出状況（南から）
SK03 内土坑完掘状況（南から）
- 写真図版 6 SK04 断面（西から）
SK05 断面 c-c'（西から）
SK06 断面 d-d'（西から）
SK08 断面 f-f'（西から）
上左：SX02 断面 g-g'（北から）
上右：SX02 完掘状況（北から）
下左：SX02 釘出土状況（北から）
- 写真図版 7 左：SX03 断面 h-h'（西から）
SD01 断面 i-i'（南から）
SD01・02 断面 k-k'（南から）
SD02 断面 j-j'（南から）
SD04 断面 l-l'（西から）
SD05 断面 n-n'（東から）
SD06 断面 o-o'（東から）
- 写真図版 8 SD06・07 断面 p-p'（東から）
SD08 断面 s-s'（南から）
SD08 断面 r-r'（東から）
SD09 断面 t-t'（南から）
SD10 断面 u-u'（南から）
SD12 断面 w-w'（南から）
SD13・14 断面 x-x'（南から）
- 写真図版 9 2 区全景（西から）
2 区南壁（北西から）
2 区西壁（東から）
- 写真図版 10 上左：SX01 検出状況（北から）
下左：SX01 断面 a-a'（南から）
上右：SX02 検出状況（北から）
下右：SX02 断面 b-b'（南から）
SX01・02 検出状況（北から）
- 写真図版 11 SX01 検出状況（北から）
SX02 検出状況（北から）
SX01・02 完掘状況（北から）
SX01 完掘状況（北から）
SX02 完掘状況（北から）
- 写真図版 12 SX01 骨・釘等出土状況（西から）
SX01 骨・釘等出土状況（東から）
P04 断面 a-a'（南から）
P05 断面 b-b'（南から）
P06 断面 c-c'（南から）
P07 断面 d-d'（西から）
- 写真図版 13 3 区全景（東から）
3 区全景（西から）
上：3 区西壁（東から）
左：3 区南壁（北東から）
- 写真図版 14 3 区東壁（西から）
P16 断面 a-a'（南から）
埋甕 01（西から）
SD01 断面 c-c'（東から）
SD01・03 断面 d-d'（東から）
SD02 断面 e-e'（南から）
SD04 断面 f-f'（東から）
- 写真図版 15 宮ノ前遺跡近景（上空から）
宮ノ前遺跡全景（西から）
- 写真図版 16 南壁（北東から）
西壁（東から）
北壁暗渠断面（南から）
西柄遺跡地元説明会①
西柄遺跡地元説明会②
- 写真図版 17 出土土器①
- 写真図版 18 出土土器②
- 写真図版 19 出土土器③
- 写真図版 20 出土土器④
- 写真図版 21 出土土器⑤
- 写真図版 22 出土金属器

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

西柄遺跡は、相生市若狭野町上松、宮ノ前遺跡は相生市若狭野町野々に所在する。両遺跡は共に相生市の市街地西側に位置し、若狭野山塊南麓及び南西側に広がる平野上に立地している。

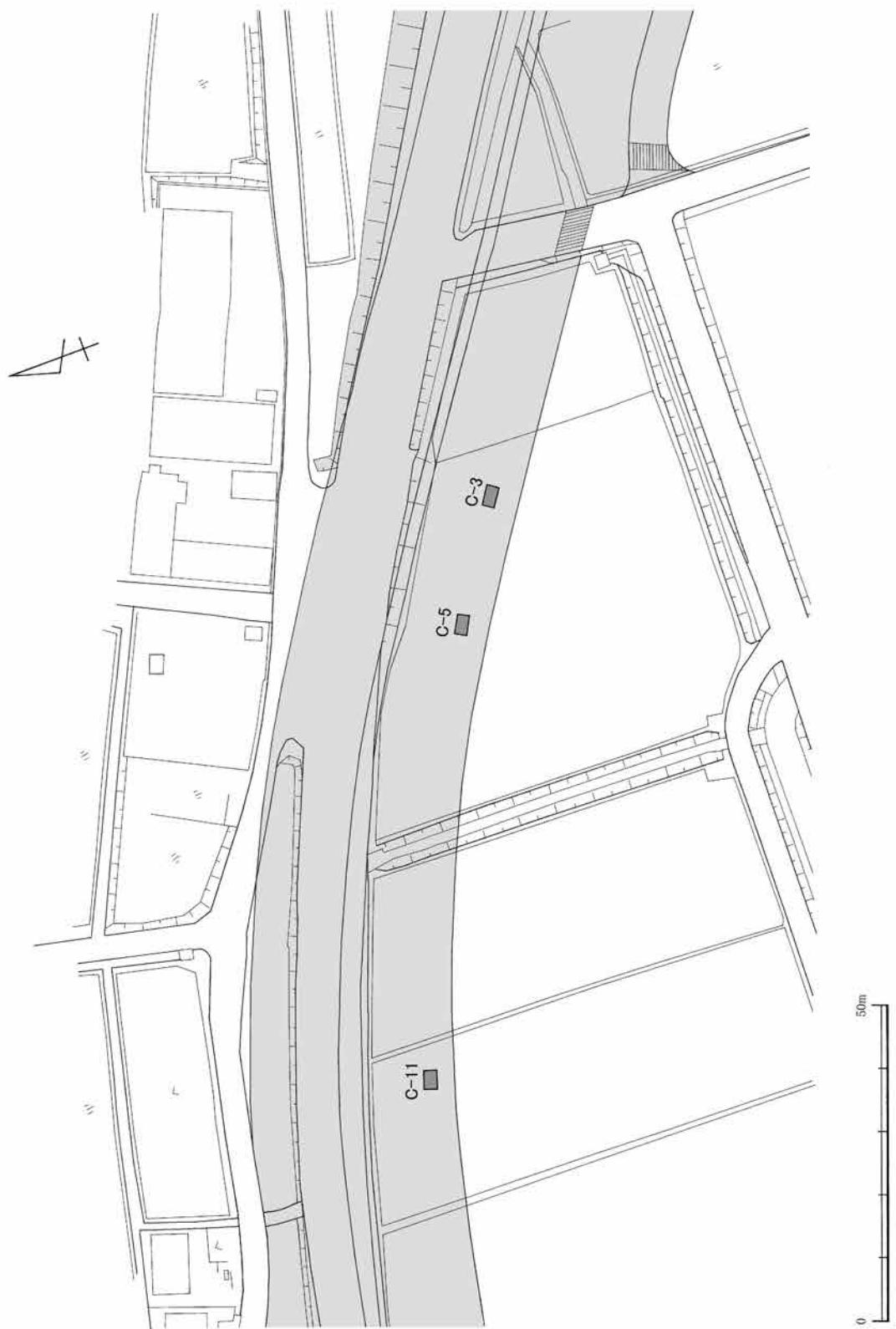
国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所は、一般国道2号相生有年道路事業を計画した。同事業は、相生市と赤穂市域の安全かつ円滑な交通を確保すると共に、沿道環境の改善を図るために、相生市若狭野町鶴亀地先から赤穂市東有年地先の約8.6kmにおいて、バイパス及び現道拡幅による4車線化と合わせた環境対策を進めるものである。このうち、14工区と呼ばれる事業区域においては平成12年度に事業化され、国土交通省近畿地方整備局姫路工事事務所長（当時）からの埋蔵文化財の分布状況について照会（平成14年11月8日付け

国近整姫2工第145号）を受けて、平成14年度に埋蔵文化財の分布調査（遺跡調査番号2002183）を実施し、その結果同工区全線にわたり埋蔵文化財の確認調査が必要とした（平成15年1月9日付け 教埋文第1318号の回答文書による）。

14工区のうち東半部に当たる相生市若狭野町上松地先から同町八洞地先にかけての工区は、事業の進捗状況に伴い工事が進められることとなったため、国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所長からの依頼（平成18年7月28日付け 国近整姫2工第43号）に基づき、平成18年度（遺跡調査番号2006099）、平成19年度（遺跡調査番号2007089）の2度にわたり確認調査を実施した。その結果、平成18年度の調査では、試掘坑B-2～4・B-12～14で遺構、遺物等を検出したため、本発掘調査が必要と判断し（平成18年10月10日付け 教埋文第3326号の回答文書による）、新発見の遺跡として西柄遺跡の名称で登録された。（図版1）また、平成19年度の調査では、試掘坑C-29・31で遺構を検出し、うちC-31から図化資料（5・6）が出土したため、本発掘調査が必要と判断し（平成19年11月7日付け 兵考第3230号の回答文書による）新発見の遺跡として宮ノ前遺跡の名称で登録された。（図版2）なお、調査対象範囲のうち、本発掘調査不要とした試掘坑からの出土遺物C-3（1）、C-5（2）、C-20（3）、C-22（4）を図化した。（第1図・図版27）

両遺跡は、事業の進捗に従い、同一時期の実施となり、国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所長からの依頼（平成20年7月29日付け 国近整姫2工第34号）に基づき、本発掘調査を実施した。

本発掘調査は、調査の進行上、宮ノ前遺跡の調査を先行した。西柄遺跡は、調査区が隣接する1区と2区、やや西側離れた3区があり、1区・2区、統いて3区といった順序で調査を行った。調査後の空中写真測量については、遺跡毎に宮ノ前遺跡で平成20年12月22日、西柄遺跡で平成21年2月4日の合計2回実施した。また、平成21年2月8日には、地元説明会を実施し（参加者数63名）、同年2月13日に全ての作業を終了し、撤収した。



第1図 報告書掲載遺物出土トレンチ位置図

分布調査及び確認調査、本発掘調査の体制は、以下の通りである。

1. 分布調査（遺跡調査番号：2002183）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会 埋蔵文化財調査事務所 企画調整班 主査 甲斐昭光
主査 高瀬一嘉

調査期間：平成14年12月11日

調査面積：約239,400m²

2. 確認調査（遺跡調査番号：2006099）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会 埋蔵文化財調査事務所 調査第2班 主査 篠宮 正
調査期間：平成18年8月9日～平成18年9月4日

調査面積：248m²

確認調査（遺跡調査番号：2007089）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県立考古博物館 埋蔵文化財調査部 企画調整班 主査 種定淳介
調査第2班 篠宮 正

調査期間：平成19年8月1日～平成19年8月20日

調査面積：248m²

3. 本発掘調査 西柄遺跡（遺跡調査番号：2008143）

宮ノ前遺跡（遺跡調査番号：2008168）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県立考古博物館 埋蔵文化財調査部 調査第1班 主査 別府洋二
主査 深江英憲

調査期間：平成20年11月19日～平成21年2月13日

調査面積：1,150m²（西柄遺跡）

：600m²（宮ノ前遺跡）

第2節 調査の概要

1. 西柄遺跡

西柄遺跡は、相生市若狭野町上松に所在する。当該事業地は、若狭野山塊の南麓に立地し、現一般国道2号の南側に位置する。

当該調査区は、国道2号線から南側の平野部に向かって傾斜する南向き斜面にあって、国道から分岐して集落内を通る町道を挟んで南側1区、北側を2区と呼称した。また、1区・2区の西200mの町道沿線南側に位置する調査区を3区と呼称した。

1区では、中世の柱穴・土坑・溝・火葬遺構等を検出した。この内、調査区北西側に集中する柱穴群は、東西南北で若干の方向性を持っており、建物として復元はできなかったものの、掘立柱建物の存在する可能性を高く持っている。また、柱穴群を囲む様な形で巡る方形区画の溝は、屋敷境の溝と考えられ、特に南北方向に延びる溝は東西幅が等間隔を成している。更に、柱穴群を巡る溝の区画の外側に当たる部分では、激しく被熱し、焼土塊や炭化材、炭層が認められる土坑（SK03）、焼土塊や炭層と共に骨片、鉄釘等が出土する土坑（1区 SX02、2区 SX01・02）等が検出され、前者は何らかの工房跡、後者は火葬遺構と考えられる。出土遺物では、当該時期にかかる土師器、瓦質土器等の他、鉄釘が出土した。

2区では、前述の火葬遺構2基の他、僅かに柱穴、溝を検出した。出土遺物では、主に火葬遺構から鉄釘が出土した。

この他、1区・2区では、縄文時代のものと考えられる石鏃が出土した。当該時期の遺構は確認されていないが、近隣において遺跡の存在する可能性を示唆している。

3区では、主に柱穴と溝を検出した。出土遺物は、所謂東播系須恵器の捏ね鉢の他、土師器、瓦質土器、青磁等が出土した。出土遺物は、1区・2区よりもやや古い様相を呈している。

2. 宮ノ前遺跡

宮ノ前遺跡は、相生市若狭野町野々に所在する。当該事業地は、若狭野山塊南西側に広がる平野上に立地し、現一般国道2号の南側沿線に位置する。当該調査区は、現状で現道と民家の間にあって、葦が繁茂する湿地状を呈しており、ベース層上には、畑地として利用されたものか、竹や板等を組み合わせた箱状の暗渠が設けられており、遺構は柱穴と土坑を僅かに検出したのみである。出土遺物は、当該調査区内の確認調査トレンチ内で、古墳時代以降の須恵器が出土した他は、本発掘調査において銅錢「元祐通寶」が出土した。

第3節 整理作業

当該事業に係る出土品整理作業は、平成24・25年度の2箇年で実施した。

1 平成24年度の整理作業

作業は、水洗い、ネーミング、金属器保存処理を行った。

整理作業に係る、体制等は以下の通りである。

公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

整理保存課 主査 篠宮 正

主査 岡本一秀

2 平成25年度の整理作業

作業は、実測・拓本、復元、写真撮影、写真整理、遺構図補正、トレース、レイアウト、報告書印刷・刊行である。なお、本報告書作成にあたっては、特に非常勤嘱託員高瀬敬子を主とする補助のもと作業を行った。

整理作業に係る、体制等は以下の通りである。

公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

整理保存課 副課長 長濱誠司

第2章 遺跡の位置と環境

本章は、同事業、同年度刊行の「有年原・クルミ遺跡 第2章」において広域且つ詳細な内容掲載が成されているため、その内容については概ね同報告書に委ねる。ここでは、当該調査地近隣の遺跡について若干触れる事とする。(第2図参照)

当該調査地近隣において、またその周辺においては、現在のところ縄文時代の遺跡は周知されていない。ただし、前章第2節でも述べたように、西柄遺跡1区・2区において当該時期と考えられる石鏸が出土しており、近隣で未発見の遺跡が存在する可能性を秘めている。

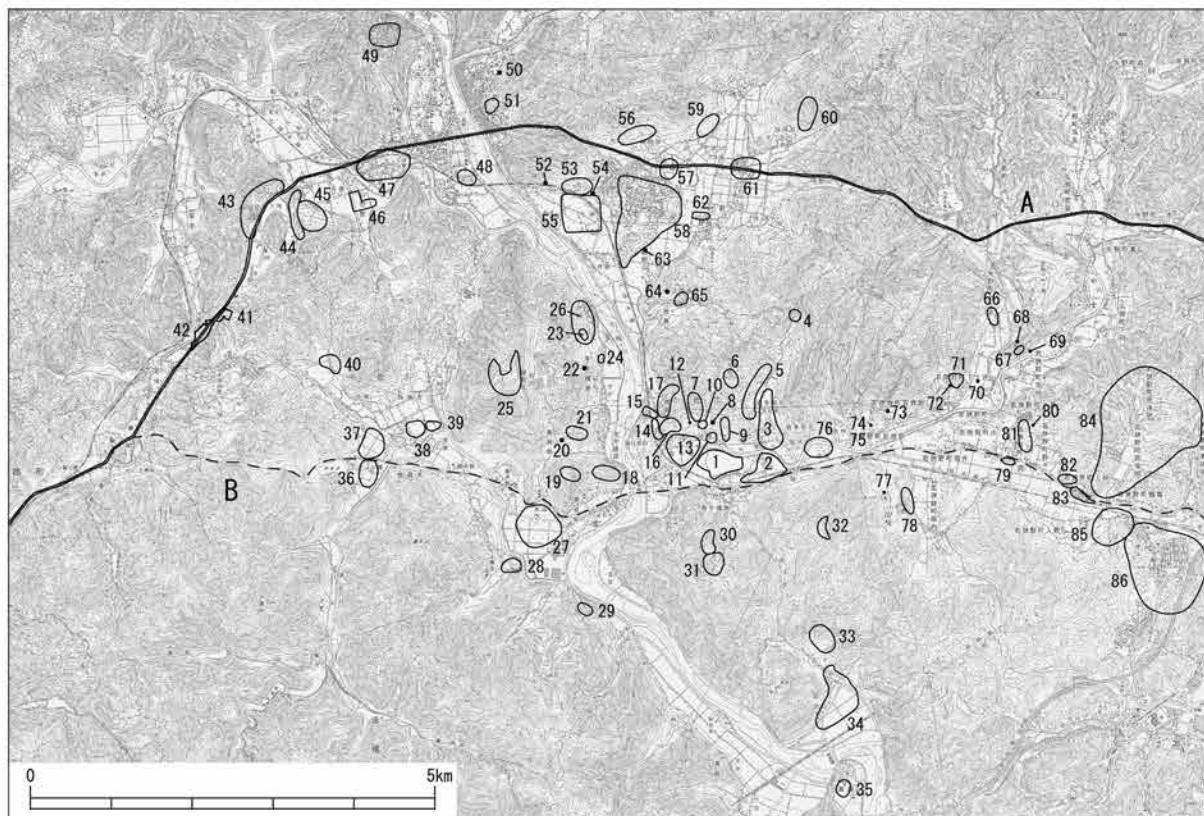
弥生時代の遺跡としては、遺物散布地ながら野々宮山遺跡(80)が周知されているが、兵庫県遺跡地図によると、開発行為によるものか、未調査のまま全壊したとの記載がある。

古墳時代の遺跡としては、横穴式石室を埋葬主体に持つ円墳の野々宮山古墳群(81)、上松古墳群(82)が周知されるが、何れも未調査のまま全壊したとされる。

奈良時代の遺跡として周知登録されている遺跡は認められないが、平安時代になると当該地域に須恵器生産遺跡が爆発的に築造され、西後明窯跡群(84)、入野窯跡群(85)、緑ヶ丘窯跡群(86)が周知される。何れも未調査のまま現存あるいは全壊、開発に伴う発掘調査後全壊している。

平安時代末以降、鎌倉時代～室町時代の遺跡としては、本報告書である集落遺跡の西柄遺跡(83)、生産遺跡(水田跡)の宮ノ前遺跡(79)が周知されている。

- ・兵庫県文化財調査報告 第457冊『有年原・クルミ遺跡 一般国道2号相生有年道路に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2014
- ・兵庫県遺跡地図 2011(平成23)年3月 兵庫県教育委員会



- | | | |
|--------------|---------------|---------------------|
| 1. 有年原・クルミ遺跡 | 31. 医王山駿行寺跡 | 61. 高田宿遺跡 |
| 2. 有年牟礼・井田遺跡 | 32. 高野須城跡 | 62. 梨ノ木遺跡 |
| 3. 有年牟礼・山田遺跡 | 33. 周世宮裏山古墳群 | 63. 中山瓦窯跡 |
| 4. 山田與窯跡 | 34. 周世入相遺跡 | 64. 正福寺北谷田古墳 |
| 5. 塚山古墳群 | 35. 高雄・根本遺跡 | 65. 正福寺窯跡 |
| 6. 奥山田古墳群 | 36. 西有年・往来南遺跡 | 66. 下土井山崎山古墳群 |
| 7. 惣計谷古墳群 | 37. 西有年・長根遺跡 | 67. 下土井城 |
| 8. 津村古墳 | 38. 西有年・垣内田遺跡 | 68. 下土井城山古墳・寺田城の下古墳 |
| 9. ハトカ古墳群 | 39. 西有年・畠田遺跡 | 69. 下土井城山遺跡 |
| 10. 有年原・北山遺跡 | 40. 馬路池遺跡 | 70. 下土井遺跡 |
| 11. 有年原・北畠遺跡 | 41. 落地飯坂遺跡 | 71. 大避山古墳群 |
| 12. 木虎谷古墳群 | 42. 落地八反坪遺跡 | 72. 奥の山遺跡 |
| 13. 有年原・田中遺跡 | 43. 飯坂古墳群 | 73. 若狭野古墳 |
| 14. 蟻無山古墳群 | 44. 井の端古墳群 | 74. 若狭野陣屋 |
| 15. 玉掘古墳群 | 45. 大酒古墳群 | 75. 若狭野廃寺遺跡 |
| 16. 奥山古墳群 | 46. 山野里大坪遺跡 | 76. 荒神山古墳群 |
| 17. 北原古墳群 | 47. 山野里宿遺跡 | 77. 松崎瓦窯址 |
| 18. 放龟山古墳群 | 48. 竹万宮ノ前遺跡 | 78. 雨内古墳群 |
| 19. 有年山城跡 | 49. 駒山城跡 | 79. 宮ノ前遺跡 |
| 20. 三軒家遺跡 | 50. 丸尾古墳 | 80. 野々宮山遺跡 |
| 21. 後藤陣山城跡 | 51. 柏原城 | 81. 野々宮山古墳群 |
| 22. 精谷山遺跡 | 52. 興井1号墳 | 82. 上松古墳群 |
| 23. 野田古墳群 | 53. 興井廃寺 | 83. 西柄遺跡 |
| 24. 上所山田遺跡 | 54. 興井瓦窯址 | 84. 相生窯址群 西後明地区 |
| 25. 黒沢山光明寺 | 55. 興井遺跡 | 85. 相生窯址群 入野地区 |
| 26. 野田遺跡 | 56. 神明寺古墳群 | 86. 相生窯址群 緑ヶ丘地区 |
| 27. 東有年・沖田遺跡 | 57. 神明寺遺跡 | |
| 28. 上菅生遺跡 | 58. 西野山・中山古墳群 | A . 古代山陽道 |
| 29. 鍋子城跡 | 59. 宇治山古墳群 | B . 近世山陽道 |
| 30. 鶴ヶ堂城跡 | 60. 佐用谷古墳群 | |

第2図 周辺の遺跡

第3章 西柄遺跡の発掘調査成果

第1節 遺構

遺構の掲載については、特に個別図化に努めた遺構を主とし、それ以外で出土遺物を図化した遺構は、各地区の遺構平面図（図版4・13・18）において遺構名のみ明示している。また、遺構名は発掘調査と本報告との遺構名表示の齟齬を避けるため、発掘調査時で付した名称をそのまま使用する。

1. 1区の調査

(1) 柱穴（図版4・8 写真図版3・4）

P02

調査区北西側、方形区画内では中央北よりで検出した。直径約33cmの円形を呈し、中央に直径約15cmの柱根を持つ。深度約43cmを測る。埋土からは、瓦質土器鍋（27）が出土している。

P09

調査区北西側、方形区画内では北西よりで検出した。直径約28cmのやや隅丸方形状の円形を呈し、中央に直径約15cmの柱根を持つ。深度約25cmを測る。

P10

調査区北西側、方形区画内では北西よりで検出した。直径約35cmの円形を呈し、南よりに直径約20cmの柱根を持つ。深度約44cmを測る。

P11

調査区北西側、方形区画内では北西よりで検出し、P12を切っている。直径約30cmの円形を呈し、中央に直径約15cmの柱根を持つ。深度約53cmを測る。

P12

調査区北西側、方形区画内では北西よりで検出し、P11に切られる。直径約40cmの隅丸方形状の円形を呈し、南よりに直径約20cmの柱根を持つ。深度約34cmを測る。

(2) 土坑（図版4・9・10 写真図版4～6）

SK02

調査区中央南よりで検出した。東西長（a-a'）約455cm、南北長（b-b'）約337cmを主としたL字状の方形遺構である。深度約5～12cmを測る。SD07を切る。

SK03

調査区中央よりで検出した。東西長約510cm、南北長（A-A'）約160cmを測る方形を基本とするプランだが、東側に窄まる筆先状を呈し、深度は約10cmを測る。西辺の中央では約40cmの溝状の突出を持つ。遺構西半部には、東西長約185cm、南北長（B-B'）約45cm、深度約7cmを測る浅い不定楕円形土坑（SK03内土坑）があり、拳大～人頭大の角礫が投棄されている。遺構は北側と西側を中心に激しく被熱し、焼土塊、炭化材、炭層が集積している。火葬遺構の可能性が考えられたが、骨片等が認められない事、検出した炭化材が建築部材と考えられる事等から、何らかの工房跡的な遺構と考えられる。出土遺物は、SK03内土坑から須恵器皿（29）が出土した。

SK05

調査区中央やや北よりのSK03北側で検出し、南側でSK06と接する。東西長約110cm、南北長（c-c'）約60cmを測る不定楕円形を呈する。深度約7cmを測り、断面形状は浅い擂鉢状を呈する。

SK06

調査区中央やや北よりのSK03北側で検出し、北側でSK05、南側でSK07と接する。東西長約120cm、南北長（d-d'）約40cmを測る不定長楕円形を呈する。深度約10cmを測り、断面形状は擂鉢状を呈する。

SK07

調査区中央やや北よりの SK03 北側で検出し、北側で SK06 と接する。東西長 220 cm、南北長 (e-e') 約 53 cmを測るやや弧状気味の不定長楕円形を呈する。深度約 7 cmを測り、断面形状は浅い擂鉢状を呈する。

SK08

調査区南西側の南壁付近で検出した。遺構の大半が調査区外にあるが、東西長約 640 cm、南北検出長 (f-f') 約 163 cmを測る不定円形を呈すると考えられる。深度約 62 cmを測り、断面形状は方形を呈すると考えられる。調査段階で粘土採掘坑と判断した。

(3) 火葬遺構 (図版 4・11 写真図版 6)

SX02

調査区西端、南北溝 SD02 西側で検出した。南北約 110 cm、東西長 (g-g') 約 39 cmを測る楕円形を呈する。深度約 5 cmを測り、断面形状は極浅い擂鉢状を呈する。土坑内が被熱し、炭化材を伴う炭層中から僅かながら骨片や鉄釘が出土している事から、火葬遺構と判断した。出土遺物は、鉄釘が 1 点出土したが、図化には至らなかった。

(4) 不明遺構 (図版 4・11 写真図版 7)

SX03

調査区南東側の南壁付近で検出した。遺構の大半が調査区外にあり、全体の形状を推し量るのは困難であるが、段状か流路状のものと考えられる。東西長約 15m、南北検出長 (h-h') 約 115 cm、深度約 70 cmを測る。

(5) 溝 (図版 4・11・12 写真図版 7・8)

SD01

調査区西側で検出した、南北方向の溝である。遺構は、調査区南外に延びており、南北検出長約 11.5 mを測る。断面 (i-i') は東西幅約 50 cm、深度約 5 cmを測り、断面 (k-k') では SD02 を切る形で合流し、東西長約 82 cm、深度約 12 cmを測る。出土遺物は、備前焼擂鉢 (14) が出土している。

SD02

調査区西側で検出した、南北方向の溝である。遺構は、調査区南北外に延びており、南北検出長約 17 mを測る。断面 (j-j') は東西幅約 177 cm、深度約 25 cmを測り、断面 (k-k') では SD01 に切られる形で合流し、東西検出長約 62 cm、深度約 16 cmを測る。出土遺物は、土師器鍋 (15)、須恵器鍋 (30)、無釉陶器擂鉢 (31) が出土している。

SD04

調査区西半部北よりで検出した、東西方向の溝である。遺構の西側を SD02 に切られ、東西検出長約 19.6 mを測る。断面 (m-m') は南北幅約 52 cm、深度約 7 cmを測る。また、断面 (l-l') は南北幅約 152 cm、深度約 20 cmを測り、比較的細い溝にあって、この部分のみ方形土坑状を呈する事から、集水槽様の機能があったものと考えられる。出土遺物は、土師器鍋 (16) が出土している。

SD05

調査区北西側で検出した、ほぼ南北方向に延びる、ややくの字状に屈曲する溝である。断面 (n-n') では東西幅約 85 cm、深度約 8 cmを測り、SD04 に切られる。

SD06

調査区西半部のほぼ中央よりで検出した、東西溝 SD04 とほぼ並行に延びる溝である。遺構の西側を SD01、SD02 に切られ、東西検出長約 17 mを測る。また、遺構の東側は、形状が不定形になり、一部 SD07 と接する。断面 (o-o') では南北幅約 18 cmと約 20 cmの 2 条で、それぞれ深度約 4 cm、約 7 cmを測る。また、断面 (p-p') では南北幅約 165 cm、深度約 10 cmを測る。

SD07

調査区西半部のほぼ中央よりで検出した、東西溝 SD06 と一部並行に延び、途中からややくの字状に屈曲して南流する溝である。南壁付近では SD12 と合流し、調査区南外に延びるが、検出長約 16m を測る。SD06 と接する断面 (p-p') では南北幅約 37 cm、深度約 7 cm を測り、断面 (q-q') では幅約 67 cm、深度約 10 cm を測る。また、南流する部分で SK02 に切られる。

SD08

調査区西半部北よりで検出した、東西に幅広く不定 L 字状に延びる溝である。断面 (r-r') では、南北幅約 110 cm、深度約 10 cm を測り、断面 (s-s') では東西幅約 223 cm、深度約 14 cm を測る。出土遺物は、須恵器鍋 (32) が出土している。

SD09

調査区中央北壁付近で検出した。北壁から東西方向に延び、やや弧状に湾曲しながら南流し、SD10 とほぼ並行する。検出長約 10m を測る。断面 (t-t') では東西幅約 83 cm、深度約 7 cm を測る。

SD10

調査区中央で検出した。調査区北壁から南壁へと南北方向に延び、SD09 とほぼ同様の方向性を持つ。南北検出長約 16m を測る。断面 (u-u') では東西幅約 40 cm、深度約 10 cm を測る。

SD11

調査区中央北よりで検出した。調査区北壁から南流し、南側を搅乱により削平される。検出長約 480 cm のうち、幅約 50 cm 空間を持ち、本来は SD10 と合流していたものと考えられる。断面 (v-v') では東西幅約 40 cm、深度約 6 cm を測る。

SD12

調査区中央南よりで検出した、南北に長い不定 L 字状を呈する溝である。南壁付近では SD07 と合流しながら調査区南外に延びる。検出長約 8 m を測る。断面 (w-w') では東西長約 95 cm、深度約 10 cm を測る。出土遺物は、須恵器杯 (33) が出土している。

SD13

調査区東側で検出した。調査区北壁から南流し、遺構南側を搅乱により削平される。西側に並走する SD14 は、搅乱により不明ながら途中で合流すると考えられる。南北検出長約 8.5 m を測る。断面 (x-x') では東西幅約 118 cm、深度約 17 cm を測る。出土遺物は、須恵器鍋 (34) が出土している。

SD14

調査区東側で検出した。SD13 と並走しながら南流し、遺構南側を搅乱により削平されるが、SD13 と合流すると考えられる。検出長約 300 cm を測る。断面 (x-x') では東西幅約 31 cm、深度約 8 cm を測る。

2. 2区の調査

(1) 柱穴 (図版 13・16 写真図版 9・12)

P04

調査区南西側、方形区画内で検出した。直径約40cmの円形を呈し、中央に直径約20cmの柱根を持つ。深度約37cmを測る。

P05

調査区南西側で検出した。直径約25cmの円形を呈し、やや東よりに直径約15cmの柱根を持つ。深度約34cmを測る。

P06

調査区南西側で検出した。直径約20cmの円形を呈し、やや中央に直径約13cmの柱根を持つ。深度約15cmを測る。

P07

調査区南西側で検出した。直径約25cmの円形を呈し、やや中央やや北よりに直径約13cmの柱根を持つ。深度約20cmを測る。

(2) 火葬遺構 (図版 13・17 写真図版 9~12)

SX01

調査区西側中央よりで検出した。南北長約132cm、東西長約62cm、深度約10cmを測る楕円形を呈する。土坑の断面形状は幅広の平床から立ち上がる浅いU字状を呈する。土坑外縁部は被熱し、床面付近は炭化材を含む炭層と焼土粒を多く含む。また、多量の骨片、鉄釘が出土した。出土遺物は、鉄釘(M7~M11)を図化し、鉄釘(M26~M30)を写真のみ掲載した。

SX02

調査区西側北よりで検出した。南北長約170cm、東西長約57cm、深度約20cmを測るやや不定な楕円形を呈する。土坑の断面形状は幅広の平床から立ち上がり僅かに逆台形状を呈する。土坑外縁部は被熱し、床面付近は炭化材を含む炭層と焼土粒を多く含む。また、多量の骨片、鉄釘が出土した。出土遺物は、鉄釘(M12~M17)を図化した。

3. 3区の調査

(1) 柱穴 (図版 18・22 写真図版 13・14)

P16

調査区西側で検出した。直径約37cmの円形を呈し、中央に直径約17cmの柱根を持つ。深度約30cmを測る。

(2) 埋甕 (図版 18・22 写真図版 13・14)

埋甕01

調査区東側で検出した。直径約61cm、深度約40cmを測る、不定円形を呈する土坑内に底部を破碎した無釉陶器をほぼ直位に埋設している。確認調査時には遺構内に落ち込んだ甕上半部が出土しており、元来は底抜けの完形甕として埋設されていたものと考えられる。出土遺物は、遺構本体としての無釉陶器甕(22)である。

(3) 溝 (図版 18・22 写真図版 13・14)

SD01

調査区西側で検出した。座標軸にほぼ沿う形で東西に延びる溝である。細く窄まる遺構東側から西流し、調査区南外へ延びる。東西検出長約19mを測る。断面(c-c')では南北幅約90cm、深度約25cmを測り、断面(d-d')では南北幅約115cm、深度約12cmを測る。出土遺物は、青磁碗(23)が出土している。

SD02

調査区中央やや東よりで検出した。SD01・03とほぼ直行する南北に延びる溝で、南北方向共に調査区外へ延びる。南北検出長約5.3mを測る。断面(e-e')では東西長約98cm、深度約13cmを測る。

SD03

調査区中央やや北よりで検出した。SD01の北側でほぼ並走する東西方向の溝で、調査区北外へ延びる。東西検出長約7mを測る。断面(d-d')では南北幅約35cm、深度約10cmを測る。

SD04

調査区西端で検出した。方向的には若干振るもの SD01とほぼ並走する東西方向の溝で、調査区南外へ延びる。東西検出長約6mを測る。断面(f-f')では南北幅約152cm、深度約12cmを測る。

第2節 遺物

遺物については、遺構と同様に西柄遺跡1区、2区、3区と地区毎に記述する。その際、遺物自体の記載のみとするため、出土遺構等の内容については、「第1表 出土遺物観察表」を参照されたい。また、確認調査の遺物については、本報告記載のものが全て宮ノ前遺跡発見時の確認調査のものとなるため、次章の宮ノ前遺跡で記述することとする。

1. 1区の遺物（第3図・図版27・29 写真図版17・19～22）

(1) 土器

- 12は瓦質土器鍋である。内湾する体部で、短く突出する鍔を持つ。
13は瓦質土器鍋である。内湾する体部で、短く突出する鍔を持つ。
14は備前焼擂鉢である。ラッパ状に開く体部に直上も立ち上がる口縁部を有す。内面に摺り面を持つ。
15は土師器鍋である。口縁部のみ残存する。体部内面に斜め方向のタタキを有す。
16は土師器鍋である。内湾する体部で、短く突出する鍔を持つ。
17は瓦質土器鍋である。内湾する体部で、短く突出する鍋を持つ。
18は土師器鍋である。内湾する体部で、短く突出する鍔を持つ。
27は瓦質土器鍋である。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。
29は須恵器皿である。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。
30は須恵器鍋である。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。
31は無釉陶器擂鉢である。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。
32は須恵器鍋である。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。
33は須恵器杯である。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。
34は須恵器鍋である。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。
35は須恵器鍋である。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。
36は須恵器鍋である。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。
37は土師器小皿である。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。
38は須恵器鍋である。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。
39は須恵器把手であろう。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。

(2) 石器

- S1は石鏸である。形体は凹基式で、矢先が欠損している。石材はサヌカイトである。

(2) 金属器

- M4は用途不明の鉄製品である。先端に丸味を持つ円錐気味の形状で、中空である。
ソケット様のものとも考えられる。

M5・M6は鉄釘である。

2. 2区の遺物（第3図・図版29 写真図版21・22）

2区内での図化、写真に至る土器の出土はなかった。

(1) 石器

S2は石鎌である。形体は凹基式で、基部の一部が欠損している。石材はサヌカイトである。

(2) 金属器

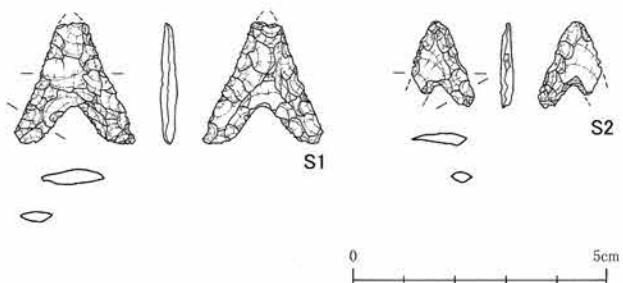
M7～M11は同一遺構から出土した鉄釘である。

M12～M17は同一遺構から出土した鉄釘である。

M18～M20は鉄釘である。

M21・M22は銅製の煙管の吸口である。

M26～M30は同一遺構から出土した鉄釘である。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。



第3図 出土石器

3. 3区の遺物（図版28・29 写真図版17・19・20・22）

(1) 土器

19は所謂東播系須恵器鉢である。体部は欠損し、口縁端部上方に肥厚し、面を成す。

20は須恵器鉢である。所謂東播系須恵器鉢である。体部は欠損し、口縁端部上方に肥厚し、面を成す。

21は土師器小皿である。立ち上がりに稜を持たない平底から短く開く体部を有する。

22は無釉陶器甕である。大型の甕で、底部は平底ながらやや張り出す。底部から胴部下半部にかけてやや外反しながら立ち上がり、胴上半部で直上気味に開く。口縁部は内面に断面台形状の張り出しを持ち、逆L字状を成す。胴下半部外面には縦方向のハケメ調整が顕著に残る。

23は青磁碗である。

24は須恵器鉢である。口縁部外面は断面三角形上に張り出し、波状文を施す。

25は瓦質土器鍋である。口縁部付近のみで、口縁部下外面には短く突出する鍔を持つ。

28は土師器皿である。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。

(2) 金属器

M23は鉄製の小刀である。

M24・M25は鉄釘である。

第4章 宮ノ前遺跡の発掘調査成果

第1節 遺構

遺構については、調査区内が湿地であった事もあり、僅かに土坑状、或いは柱穴状の遺構が認められるのみで、生産遺跡としての水田遺構の検出にも努めたが、不定形の浅い落ち込みを確認するのみであった。調査区内で検出した竹と板で組み合わせた暗渠の存在感を考慮すると、当該地の現在に至るまでの永年に渡る土地利用の有り様を想像するに余りある。このため、本報告の遺構としては、調査区平面図と調査区断面図のみ掲載した。(図版 23~26 写真図版 15・16)

第2節 遺物

遺物については、前章第2節の冒頭で記述したとおり、確認調査の遺物については本節で記述することとする。法量等の内容については、「第1表 出土遺物観察表」を参照されたい。

1. 確認調査の遺物 (図版 27 写真図版 18・20)

(1) 土器

- 1 は須恵器碗である。断面逆台形の高台から立ち上げる体部である。
- 2 は須恵器碗である。糸切り痕を残す底部から浅く開く体部を持つ。
- 3 は須恵器皿である。細身の高台からやや内湾気味に立ち上がる体部を持つ。
- 4 は須恵器蓋である。浅い体部から短く垂下する口縁部を持ち、口縁端部は細身である。
- 5 は須恵器杯身である。やや内湾しながら立ち上がる浅い体部で、口縁端部は細身である。
- 6 は須恵器杯身である。受部から短く内傾気味に立ち上がる口縁部を有す。
- 26 は所謂韓式土器の甕の体部と考えられる。遺跡出土として希少性はあるが、細片であり、図化に至らなかったため、写真のみの掲載とした。

2. 宮ノ前遺跡の遺物 (図版 27・29 写真図版 17・18・21・22)

(1) 土器

- 7 は須恵器杯である。やや内湾しながら立ち上がる体部で、口縁端部は細身である。
- 8 は須恵器蓋である。やや内湾気味の体部で、かえり状の短く外反する口縁部を持つ。口縁端部は細身である。
- 9 は須恵器蓋である。やや内湾気味の体部で、かえり状の短く外反する口縁部を持つ。口縁端部は細身である。
- 10 は須恵器蓋である。やや内湾気味の体部で、口縁端部は細身である。
- 11 は土師器皿である。平底から短く開き、やや外反する口縁部を持つ。
- 40 は須恵器蓋である。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。
- 41 は土師器羽釜である。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。
- 42 は土師器の羽釜である。図化に至らなかつたため、写真のみの掲載とした。

(2) 金属器

- M1・M2 は鉄釘である。
M3 は銅錢である。銭貨名は「元祐通寶」であり、初鑄造年代 1086 年の宋錢である。

第5章 まとめ

以上、西柄遺跡と宮ノ前遺跡の調査成果を述べた。

西柄遺跡では、中心とする出土遺物の時期から室町時代集落跡であることが分かった。1区における南北方向、東西方向の方形区画溝は、特に東西等間隔を意識した屋敷地の境界を示す溝と、(建物自体の復元には至らなかつたが)掘立柱建物を囲む或いは建物自体の生活に根ざした溝と想定される。また、2区南側の段落ちについても、屋敷境界を窺わせる造成の痕跡とも想定され、1区・2区間にある現道は、当時から存在する道であった可能性も考えられる。

柱穴群が集中する大区画内にあって、東西溝を挟んだ南半部は、柱穴が殆ど検出されておらず、区画内での土地利用の違いが認められる。例えば、南壁付近で検出したSK08は、遺構の状況から粘土採掘坑と判断される。

また、大区画外では、区画東側で検出した何らかの工房跡の可能性が想定されるSK03は、検出した炭化材等から、数本の柱で支えられた南向きの簡易な覆屋であったものと推測される。

更に、区画西侧、区画北側の2区で検出した焼土塊や炭層中から多量の骨片や鉄釘が出土した1区SX02や2区SX01・02は、火葬という葬送行為を、屋敷地に近接しながら、区画の外で執り行うという意識を表出したものと考えられる。

1区・2区から200m程西にある3区では、前者と同様の区画に伴う東西方向及び南北方向の溝、柱穴、土坑を検出したが、建物の復元には至らなかつた。3地区共に同時期の集落跡と想定していたが、3区では鎌倉時代の所謂東播系須恵器の捏鉢が出土し、逆に1区・2区では1点も認められない事から、3区周辺で鎌倉時代に集落が形成され、それ以降、集落が拡大、若しくは移転する形で、1区・2区で室町時代に集落が形成されたと考えられる。

以上、西柄遺跡では、鎌倉時代～室町時代の集落跡を調査したが、1区・2区でそれぞれ出土した縄文時代のものと考えられる石鏸やサヌカイト・チップは、当該地周辺における同時期の遺跡の存在を窺わせるものである。

宮ノ前遺跡では、古墳時代～中世の土器、宋銭等が出土したものの、不定形な畦畔状の地形、土坑状・柱穴状の落ち込みを検出するに留まつた。水田遺構等、生産遺跡としての明確な遺構の検出には至らなかつたが、出土遺物から当該時期にあたる遺跡が隣接しているのは間違いない。

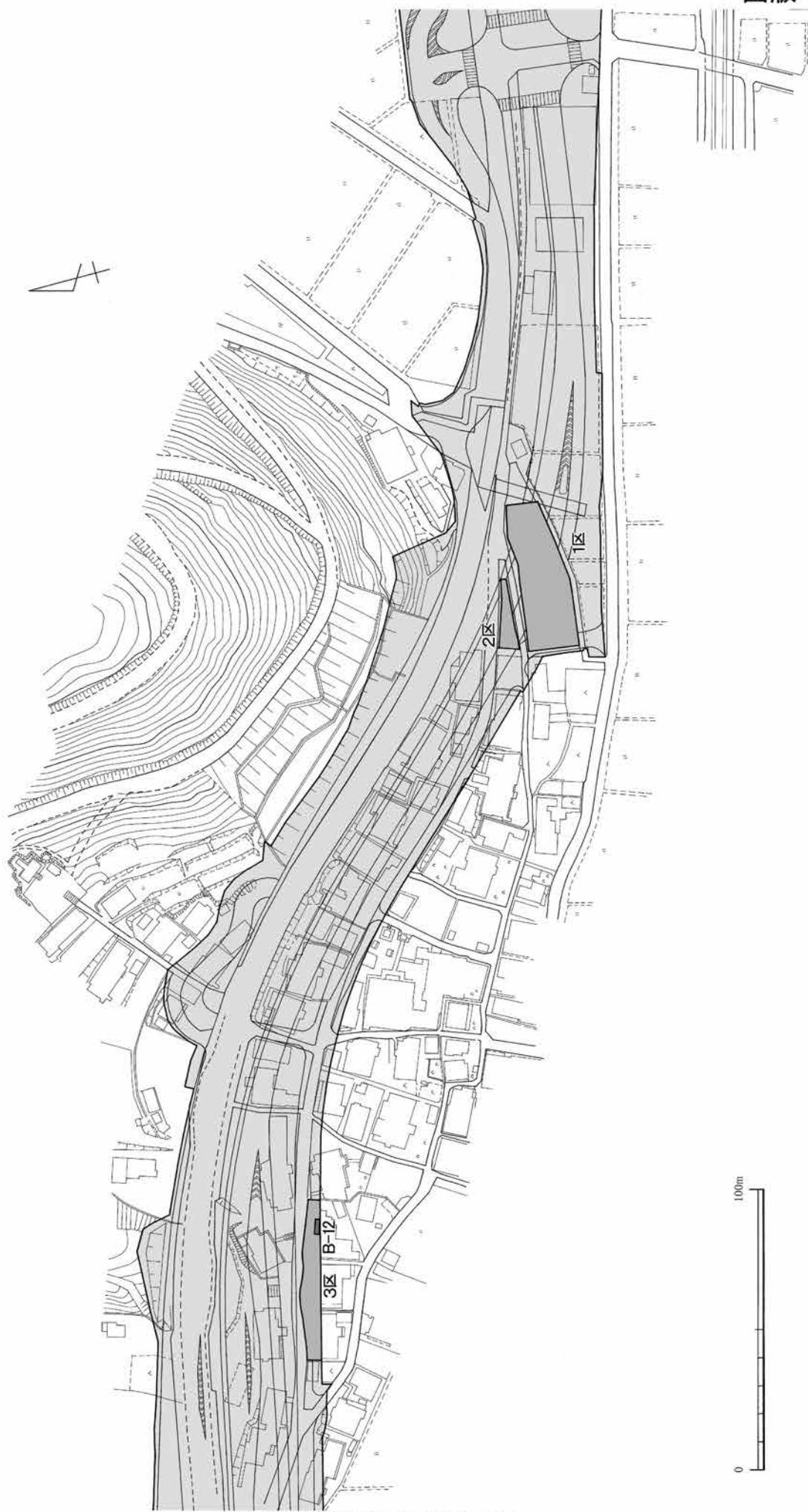
第1表 出土遺物観察表

| 報告番号 | 図版番号 | 写真図版番号 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | | | | 出土地区 | 出土遺構 |
|------|------|--------|------|-----|---------|--------|---------|--------|------|----------------------|-------|----------|
| | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 長さ | 幅 | 厚み | | |
| 1 | 27 | 18 | 須恵器 | 椀B | - | (3.1) | 8.0 | | | | | C-3 |
| 2 | 27 | 18 | 須恵器 | 椀B | - | (1.5) | (7.2) | | | | | C-5 |
| 3 | 27 | 18 | 須恵器 | 皿B | (14.0) | 3.4 | (8.7) | | | | | C-20 |
| 4 | 27 | 18 | 須恵器 | 蓋 | (19.9) | (3.05) | - | | | | | C-22 |
| 5 | 27 | 18 | 須恵器 | 杯身 | (13.8) | (2.8) | - | | | | | C-31 土坑 |
| 6 | 27 | 18 | 須恵器 | 杯身 | (13.3) | (3.15) | - | | | | | C-31 |
| 7 | 27 | 18 | 須恵器 | 杯 | (10.0) | 3.2 | (3.65) | | | | | 宮ノ前遺跡 |
| 8 | 27 | 18 | 須恵器 | 蓋 | (9.15) | (2.6) | - | | | | | 宮ノ前遺跡 |
| 9 | 27 | 18 | 須恵器 | 蓋 | (9.1) | (3.1) | - | | | | | 宮ノ前遺跡 |
| 10 | 27 | 17 | 須恵器 | 蓋 | (14.8) | (3.95) | - | | | | | 宮ノ前遺跡 |
| 11 | 27 | 18 | 須恵器 | 皿 | (15.85) | 1.55 | (14.05) | | | | | 宮ノ前遺跡 |
| 12 | 27 | 17 | 瓦質土器 | 鍋 | (30.6) | (10.0) | - | | | (33.7) | 1区 | P07 |
| 13 | 27 | 19 | 瓦質土器 | 鍋 | (26.0) | (6.7) | - | | | (29.1) | 1区 | P15 |
| 14 | 27 | 17 | 備前 | 擂鉢 | (25.2) | (7.7) | - | | | | 1区 | SD01 |
| 15 | 27 | 19 | 土師器 | 鍋 | - | (4.75) | - | | | | 1区 | SD02 |
| 16 | 27 | 19 | 土師器 | 鍋 | (19.6) | (5.35) | - | | | (23.5) | 1区 | SD04 |
| 17 | 27 | 19 | 瓦質土器 | 鍋 | (27.4) | (4.2) | - | | | (31.4) | 1区南半部 | |
| 18 | 27 | 19 | 土師器 | 鍋 | (29.3) | (7.15) | - | | | (31.0) | 1区北半部 | |
| 19 | 28 | 19 | 須恵器 | 鉢 | (30.0) | (6.8) | - | | | | 3区西半部 | P06 |
| 20 | 28 | 19 | 須恵器 | 鉢 | (28.6) | (4.4) | - | | | | 3区 | P12 |
| 21 | 28 | 19 | 土師器 | 小皿 | (7.4) | 1.6 | (5.6) | | | | 3区西半部 | P13 |
| 22 | 28 | 17 | 無釉陶器 | 甕 | (63.3) | 63.3 | 38.3 | | | | 3区 | 埋甕01 |
| 23 | 28 | 19 | 青磁 | 碗 | (13.6) | (3.6) | - | | | | 3区西半部 | SD01 |
| 24 | 28 | 19 | 須恵器 | 鉢 | - | (4.8) | - | | | | 3区西半部 | |
| 25 | 28 | 19 | 瓦質土器 | 鍋 | (25.2) | (3.95) | - | | | | 3区西半部 | |
| 26 | | 20 | 須恵器 | ? | | | | | | | C11 | |
| 27 | | 20 | 瓦質土器 | 鍋 | | | | | | | 1区 | P02 |
| 28 | | 20 | 土師器 | 皿 | | | | | | | 3区西半部 | P05 |
| 29 | | 20 | 須恵器 | 皿 | | | | | | | 1区 | SK03 内土抗 |
| 30 | | 20 | 須恵器 | 鍋 | | | | | | | 1区 | SD02 |
| 31 | | 20 | 無釉陶器 | 擂鉢 | | | | | | | 1区 | SD02 |
| 32 | | 20 | 須恵器 | 鍋 | | | | | | | 1区 | SD08 |
| 33 | | 20 | 須恵器 | 杯 | | | | | | | 1区 | SD12 |
| 34 | | 20 | 須恵器 | 鍋 | | | | | | | 1区 | SD13 |
| 35 | | 20 | 須恵器 | 鍋 | | | | | | | 1区北半部 | |
| 36 | | 20 | 須恵器 | 鍋 | | | | | | | 1区 | |
| 37 | | 20 | 土師器 | 小皿 | | | | | | | 1区南半部 | |
| 38 | | 20 | 須恵器 | 鍋 | | | | | | | 1区南半部 | |
| 39 | | 20 | 須恵器 | 把手? | | | | | | | 1区南半部 | |
| 40 | | 21 | 須恵器 | 蓋 | | | | | | | 宮ノ前遺跡 | |
| 41 | | 21 | 土師器 | 羽釜 | | | | | | | 宮ノ前遺跡 | |
| 42 | | 21 | 土師器 | 羽釜 | | | | | | | 宮ノ前遺跡 | |
| S1 | 第3図 | 21 | 石器 | 石鏃 | | | | 2.35 | 2.35 | 0.3 | 1区 | |
| S2 | 第3図 | 21 | 石器 | 石鏃 | | | | 1.65 | 1.25 | 0.25 | 2区 | |
| M1 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | (2.35) | 0.6 | 0.6 | 宮ノ前遺跡 | |
| M2 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | (3.35) | 0.88 | 0.63 | 宮ノ前遺跡 | |
| M3 | 29 | 22 | 銅製品 | 錢 | | | | | | | 宮ノ前遺跡 | |
| M4 | 29 | 22 | 鉄製品 | 不明品 | | | | 3.4 | 0.92 | 0.22 | 1区 | |
| M5 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | 5.24 | 0.85 | 0.51 | 1区 | |
| M6 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | 2.75 | 0.5 | 0.5 | 1区南半部 | |
| M7 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | 2.5 | 0.52 | 0.52 | 2区 | SX01 |
| M8 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | (3.3) | 0.75 | 0.55 | 2区 | SX01 |
| M9 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | 3.4 | 0.92 | 0.9 | 2区 | SX01 |
| M10 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | 2.68 | 0.46 | 0.5 | 2区 | SX01 |
| M11 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | (1.88) | 0.54 | 0.56 | 2区 | SX01 |
| M12 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | (4.2) | 0.6 | 0.51 | 2区 | SX02 |
| M13 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | 3.91 | 0.59 | 0.55 | 2区 | SX02 |
| M14 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | 4.0 | 0.48 | 0.5 | 2区 | SX02 |
| M15 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | 3.95 | 0.6 | 0.55 | 2区 | SX02 |
| M16 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | (3.2) | 0.6 | 0.5 | 2区 | SX02 |
| M17 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | 3.75 | 0.6 | 0.51 | 2区 | SX02 |
| M18 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | (3.3) | 0.5 | 0.5 | 2区 | SR01 |
| M19 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | (2.15) | 0.69 | 0.55 | 2区 | SR01 |
| M20 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | (3.4) | 0.5 | 0.5 | 2区 | |
| M21 | 29 | 22 | 銅製品 | 煙管 | | | | 6.42 | 1.0 | 0.08 | 2区 | |
| M22 | 29 | 22 | 銅製品 | 煙管 | | | | 7.18 | 0.95 | 0.08 | 2区 | |
| M23 | 29 | 22 | 鉄製品 | 刀子 | | | | (12.9) | 0.55 | 0.65 0.28 0.77 | 3区西半部 | |
| M24 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | (4.6) | 0.5 | 0.45 | 3区西半部 | |
| M25 | 29 | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | 4.75 | 0.48 | 0.45 | 3区西半部 | SK01 |
| M26 | | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | | | | 2区 | SX01 |
| M27 | | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | | | | 2区 | SX01 |
| M28 | | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | | | | 2区 | SX01 |
| M29 | | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | | | | 2区 | SX01 |
| M30 | | 22 | 鉄製品 | 釘 | | | | | | | 2区 | SX01 |

報 告 書 抄 錄

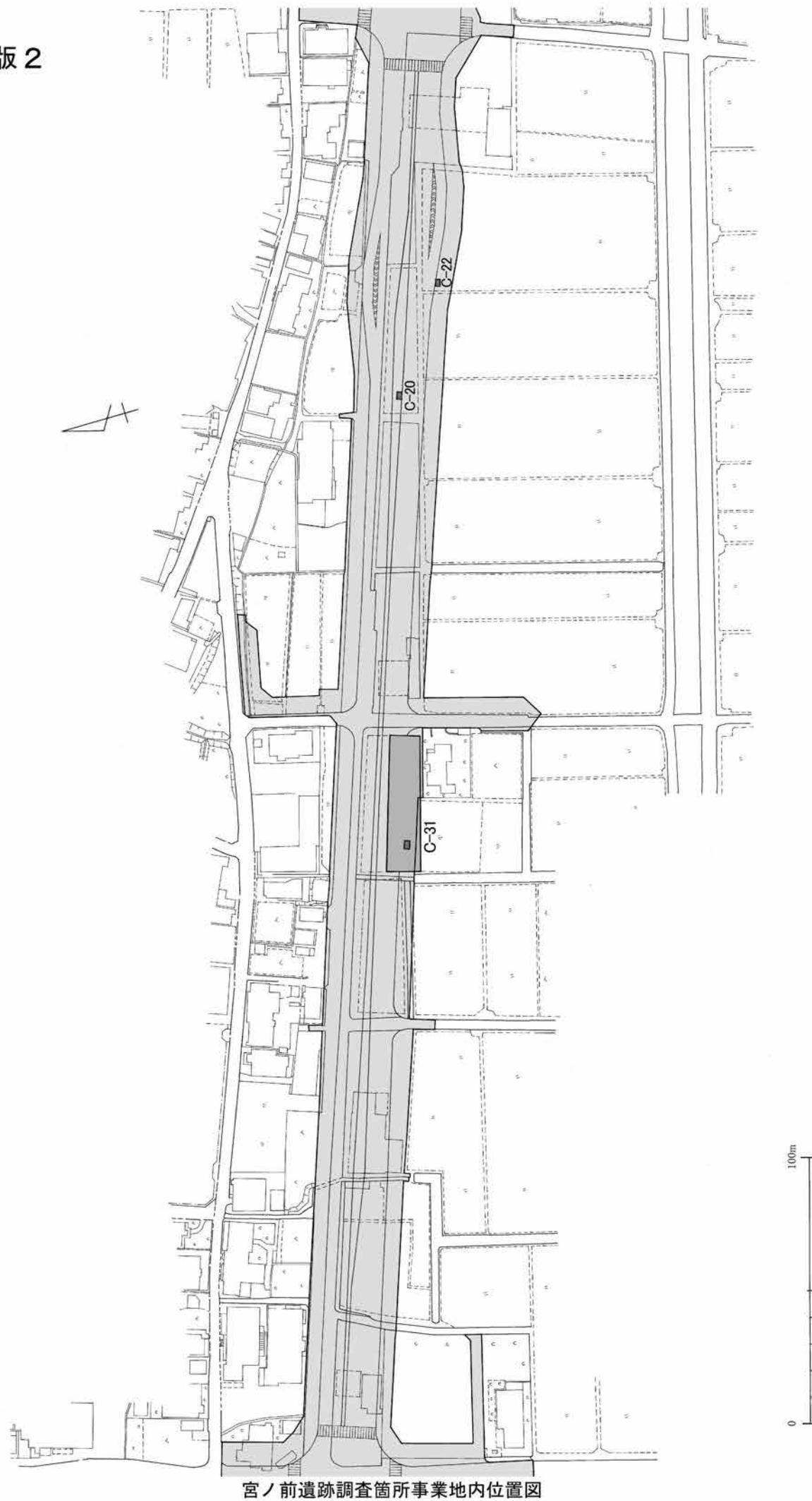
| ふりがな | にしがらいせき・みやのまえいせき | | | | | | | |
|------------------|--|---------|-----------------------|----------------------------------|--------------|--|--|--------|
| 書名 | 西柄遺跡・宮ノ前遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | 一般国道2号相生有年道路事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 兵庫県文化財調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第456冊 | | | | | | | |
| 編著者名 | 深江 英憲 | | | | | | | |
| 編集機関 | 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号（兵庫県立考古博物館内） Tel079-437-5561 | | | | | | | |
| 発行機関 | 兵庫県教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号 Tel078-362-3784 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 平成26(2014)年2月26日 | | | | | | | |
| 資料保管機関 | 兵庫県立考古博物館 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号 Tel079-437-5589 | | | | | | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 (遺跡調査番号) | 調査面積 (m ²) | 発掘原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| にしがらいせき 西柄遺跡 | あいおいしわかさのちょう 相生市若狭野町 うえまつ 上松 | 28208 | 90230 | 34° 49' 41" | 134° 26' 38" | 20070801～20070820 (2007089) 20081119～20090213 (2008143) | 248 m ² 1,150 m ² | 記録保存調査 |
| みやまえいせき 宮ノ前遺跡 | あいおいしわかさのちょう 相生市若狭野町 のの 野々 | | | 90231 | 34° 49' 54" | 134° 26' 05" | 20081119～20090213 (2008168) | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 西柄遺跡 | 集落跡 | 縄文時代・中世 | 柱穴・溝 火葬遺構 土坑・埋甕 | 石鏃・土師器・須恵器 瓦質土器・備前焼陶器 青磁・釘 | | | | |
| 宮ノ前遺跡 | | 古墳時代・中世 | 土坑・柱穴 | 須恵器・備前焼・宋銭 | | | | |
| 要約 | <p>西柄遺跡・宮ノ前遺跡は、相生市市街地の西側に位置し、若狭野山塊の南麓及び南西側に広がる平野上に立地している。</p> <p>西柄遺跡では、中世の柱穴・溝・火葬遺構・土坑・井戸・埋甕等を検出した。この内、柱穴は主に1区調査区の北西に集中し、掘立柱建物に伴うものと考えられるが、建物の復元には至らなかった。また、その柱穴を区画する様に方形区画の溝が巡り、南北方向の溝が一定間隔で延びる事から、屋敷境の溝と考えられる。更に、溝を隔てて屋敷の東側では、何らかの工房跡と推測される土坑(SK03)、西側と北側では火葬遺構と考えられる1区SX01と2区SX01・SX02を検出している。3区では、主に溝と柱穴群を検出したが、出土遺物が1区・2区よりも古い様相を呈しており、当該地に先行して集落が形成され、1区・2区に拡大若しくは移ったものと考えられる。そのほか、1区・2区では、縄文時代の石鏃が出土しており、近隣において当該時期の遺跡が存在することが窺える。</p> <p>宮ノ前遺跡は、僅かながら土坑・柱穴を検出したが、現状で葦が繁茂するような湿地帯で、調査区内には畠地としての土地利用のために近現代の暗渠が設けられており、以前より同様の土地利用が成されたことが想定され、集落跡の末端の様相を呈している。</p> | | | | | | | |

図 版



西柄遺跡調査箇所事業地内位置図

図版 2

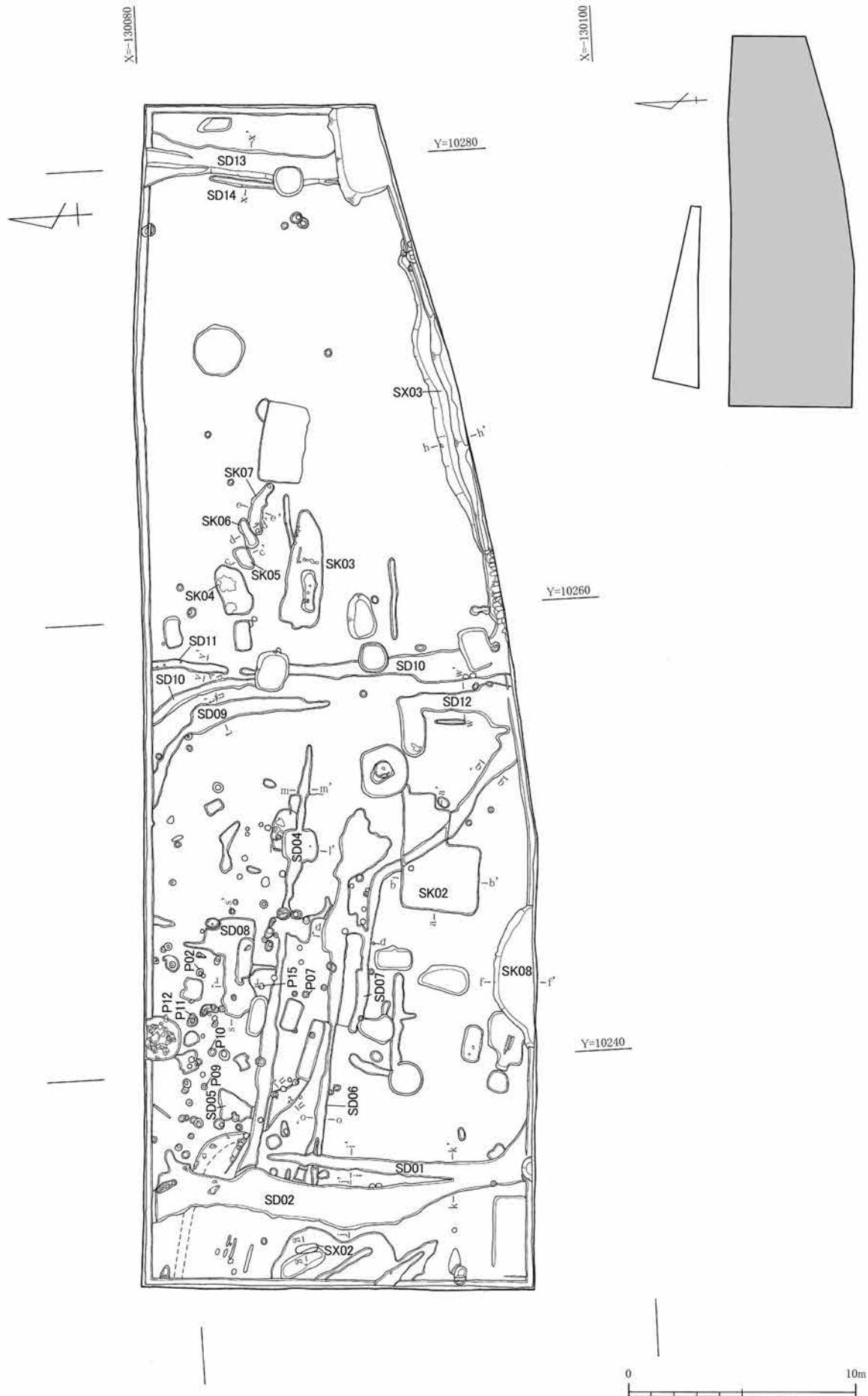


図版3

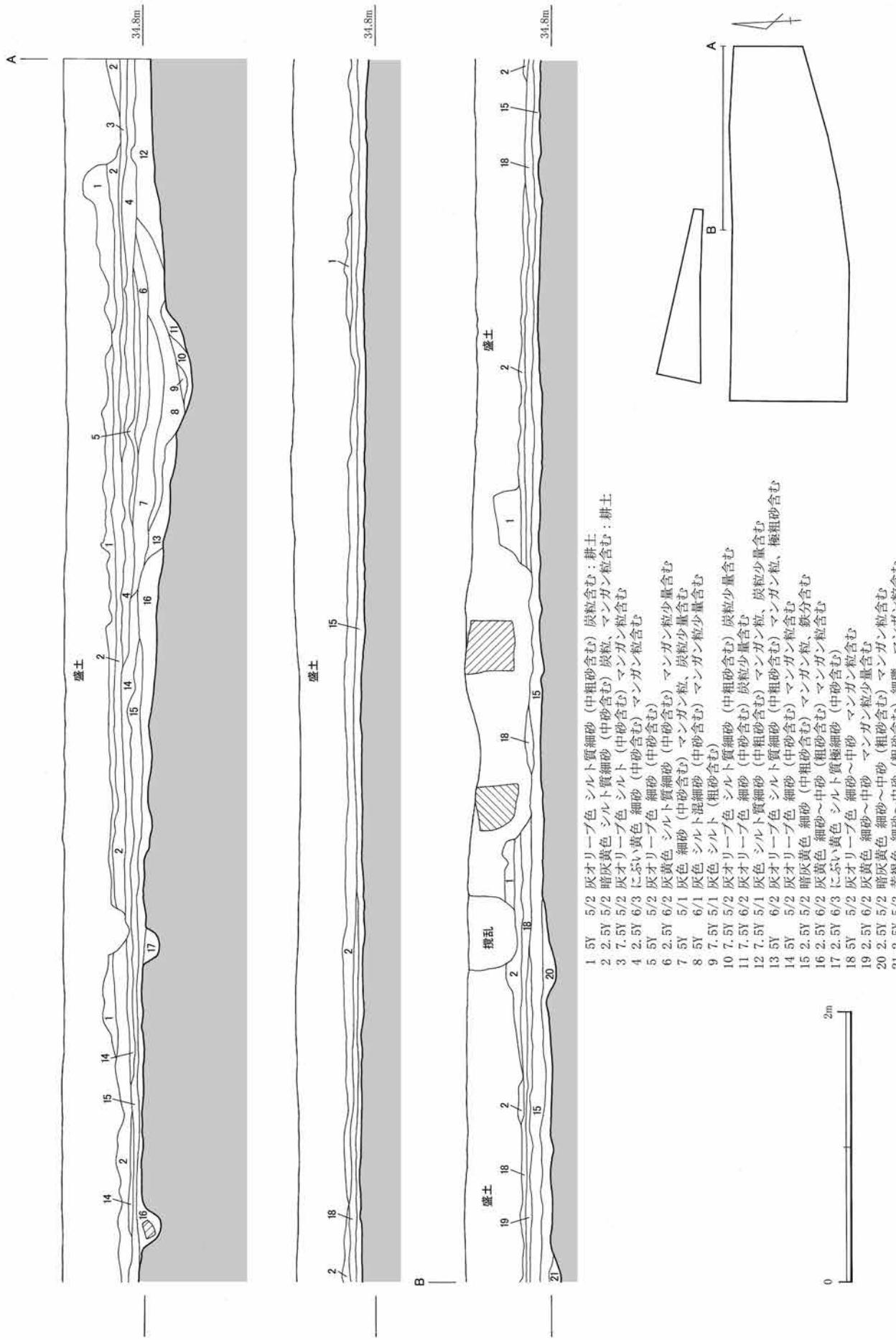


西柄遺跡調査区位置図

図版 4

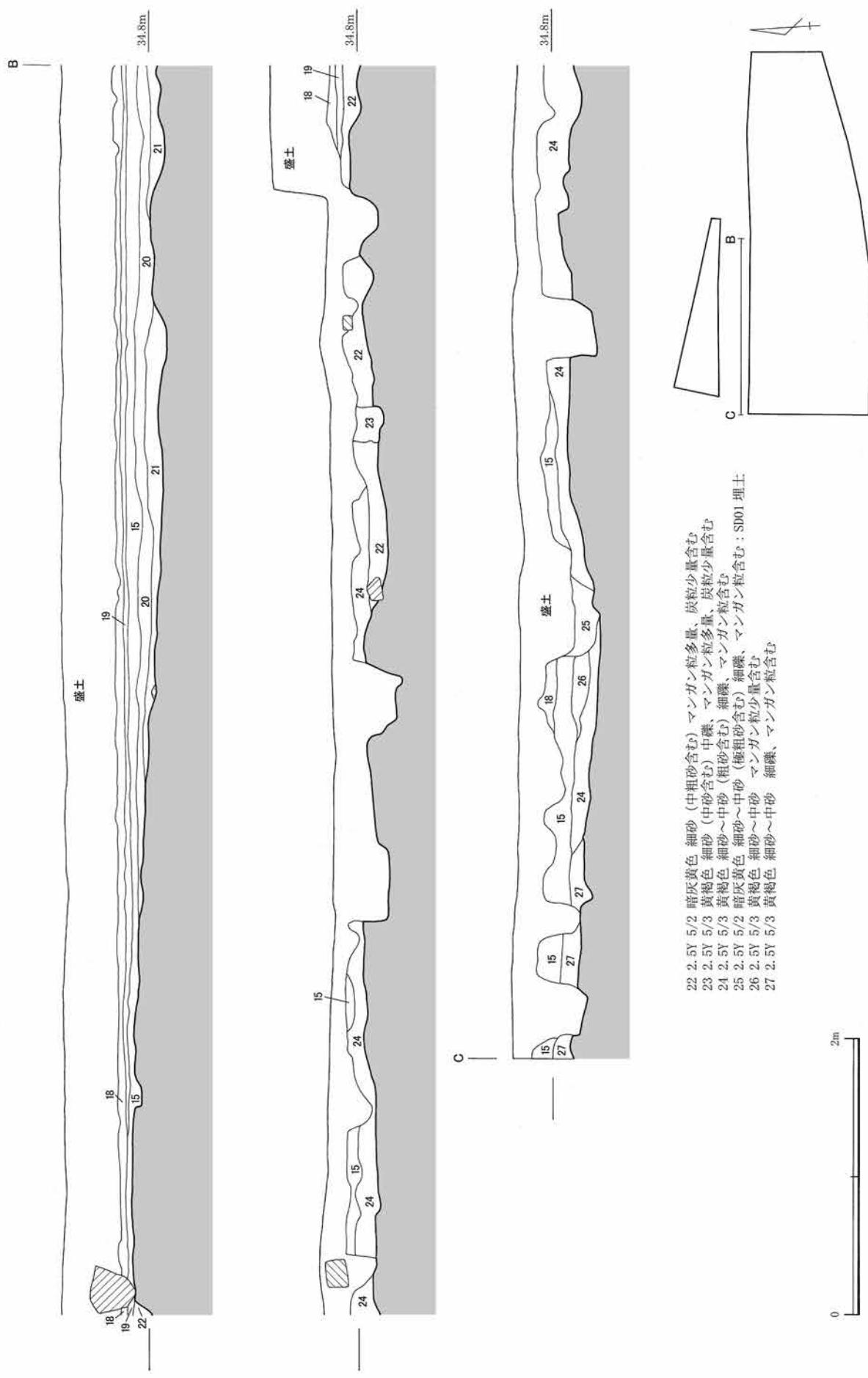


1区遺構平面図

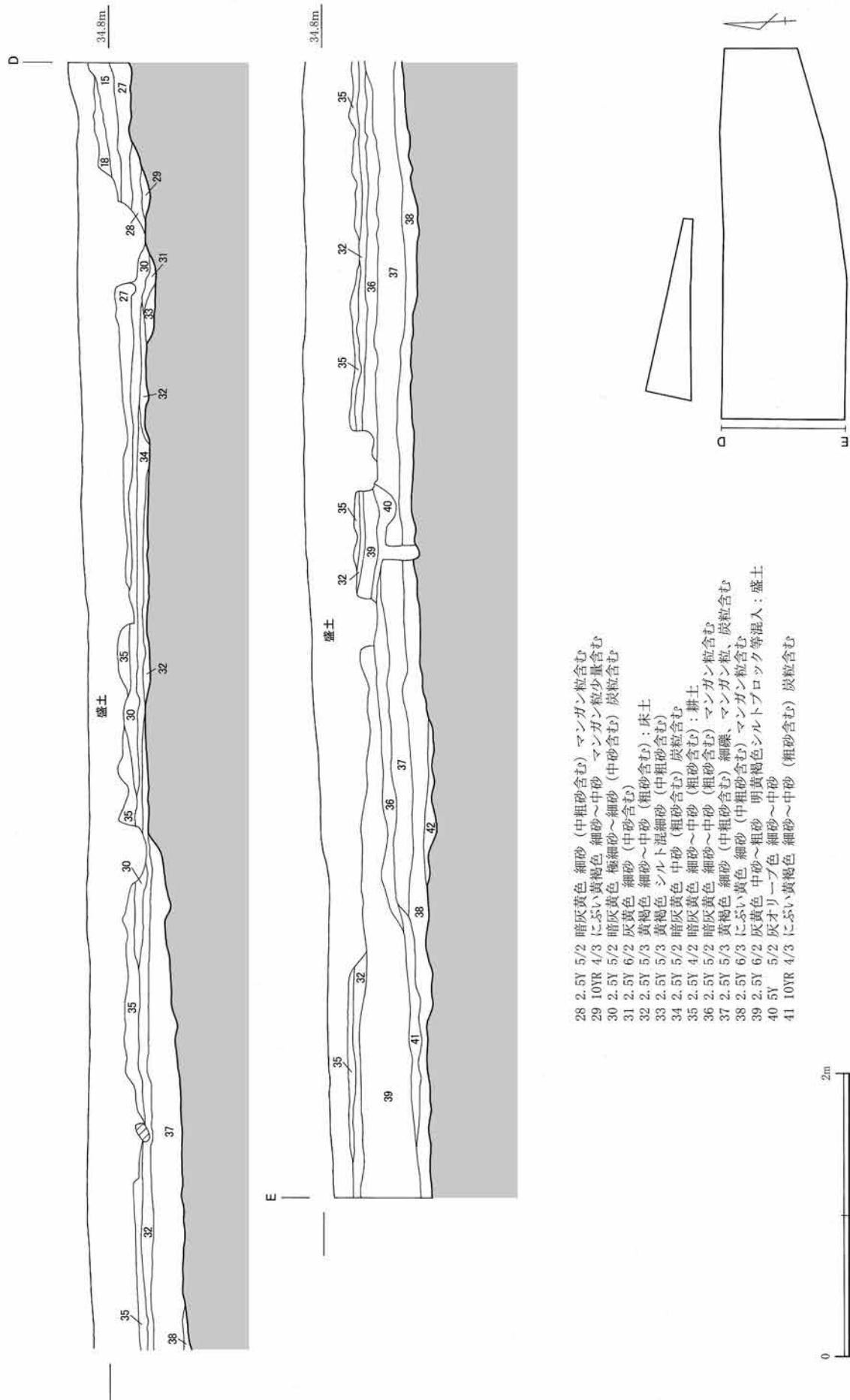


1区北壁断面図①

図版 6

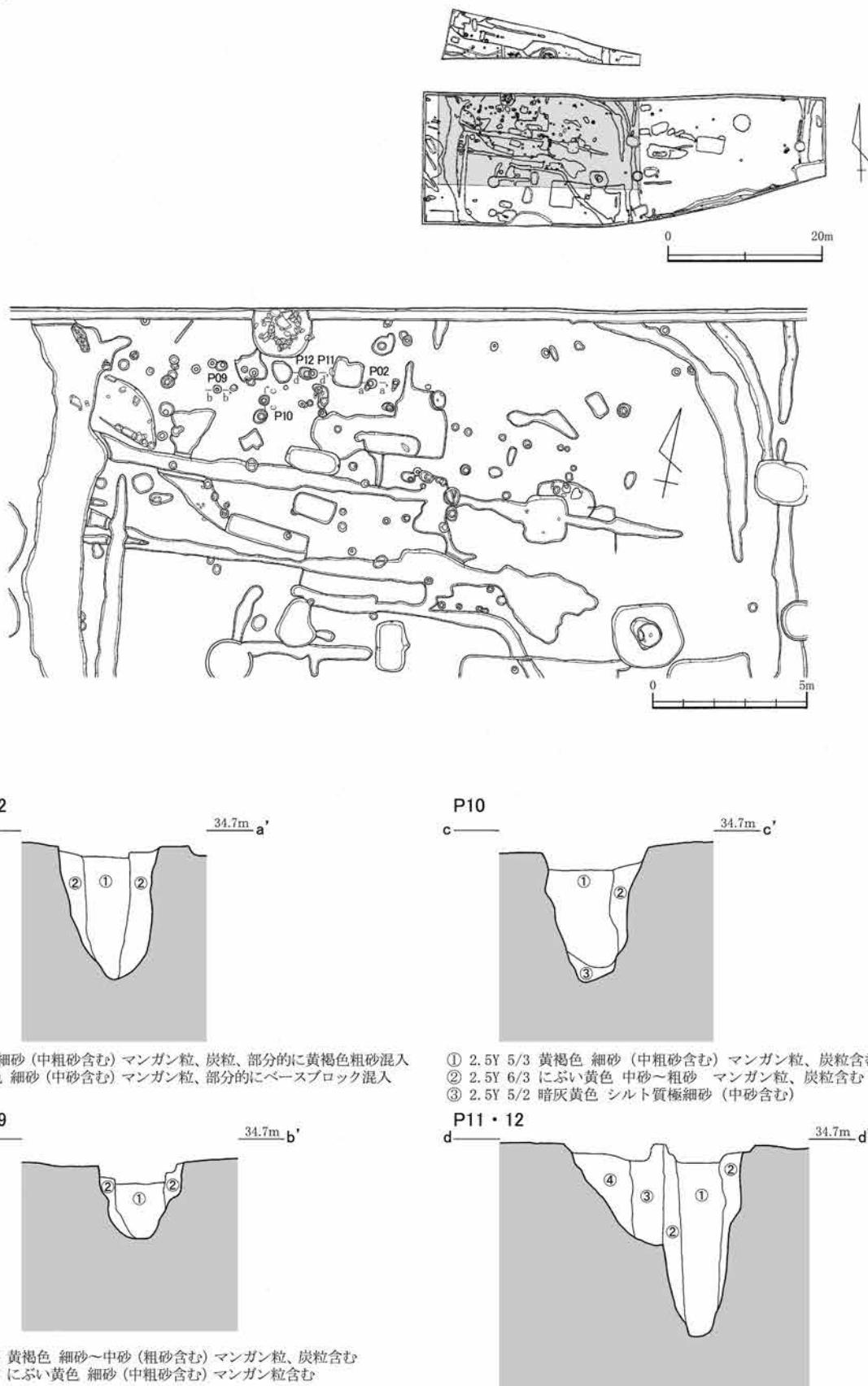


1 区北壁断面図(②)



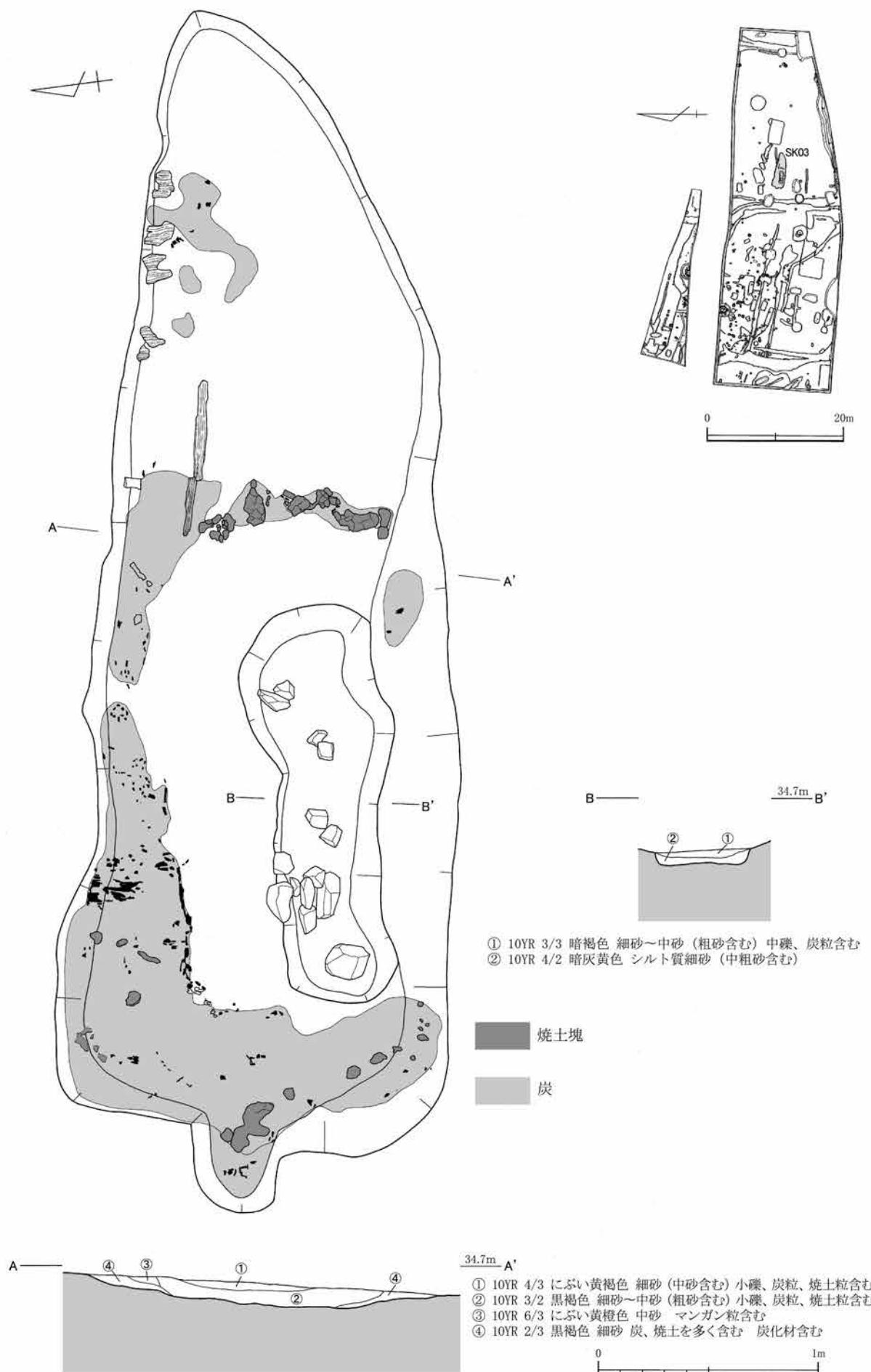
1区西壁断面図

図版 8



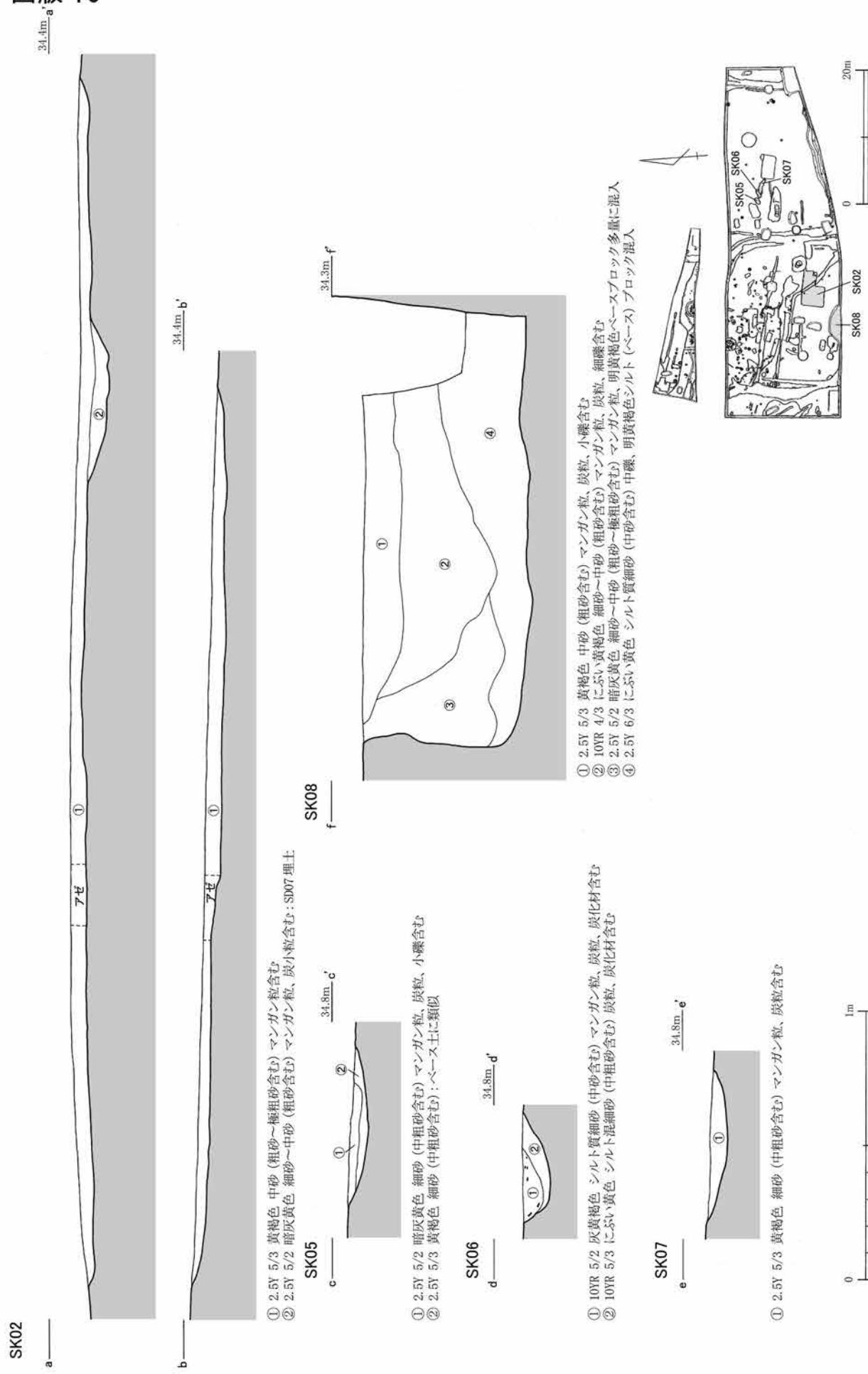
1区 P02・09～12断面図

図版 9



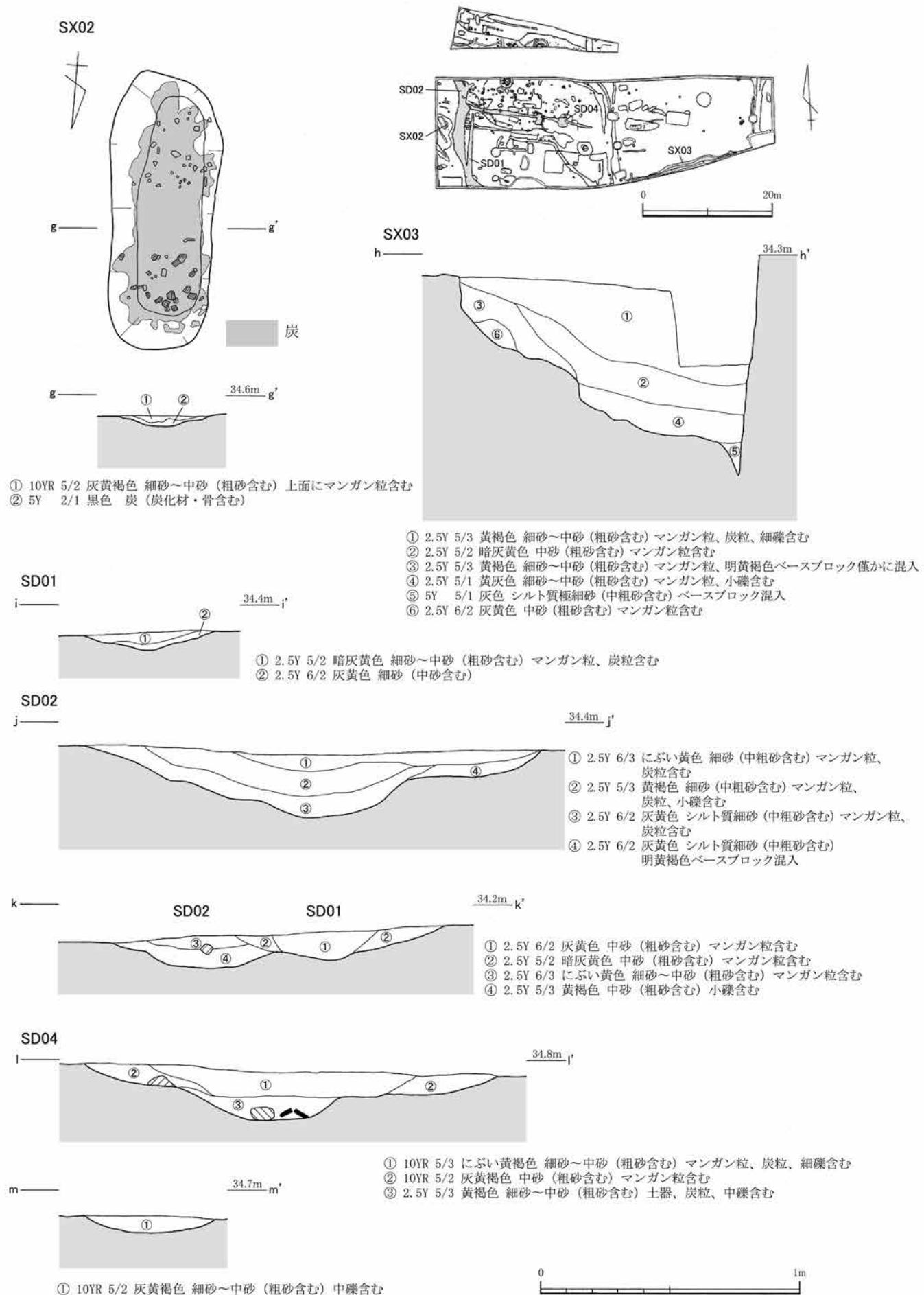
1区 SK03 平面図・断面図

図版 10



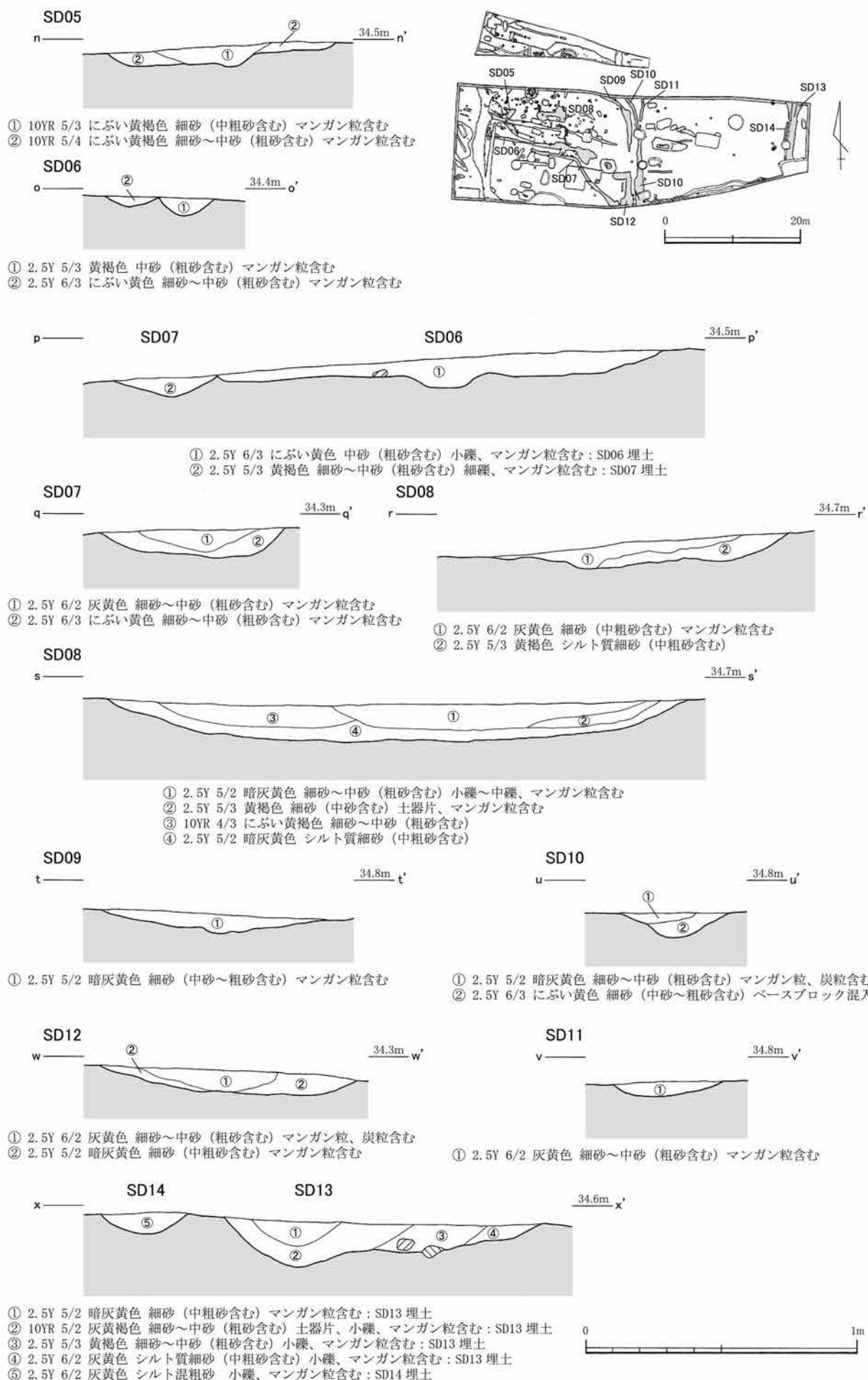
1 区 SK02・05 ~ 08 断面図

図版 11

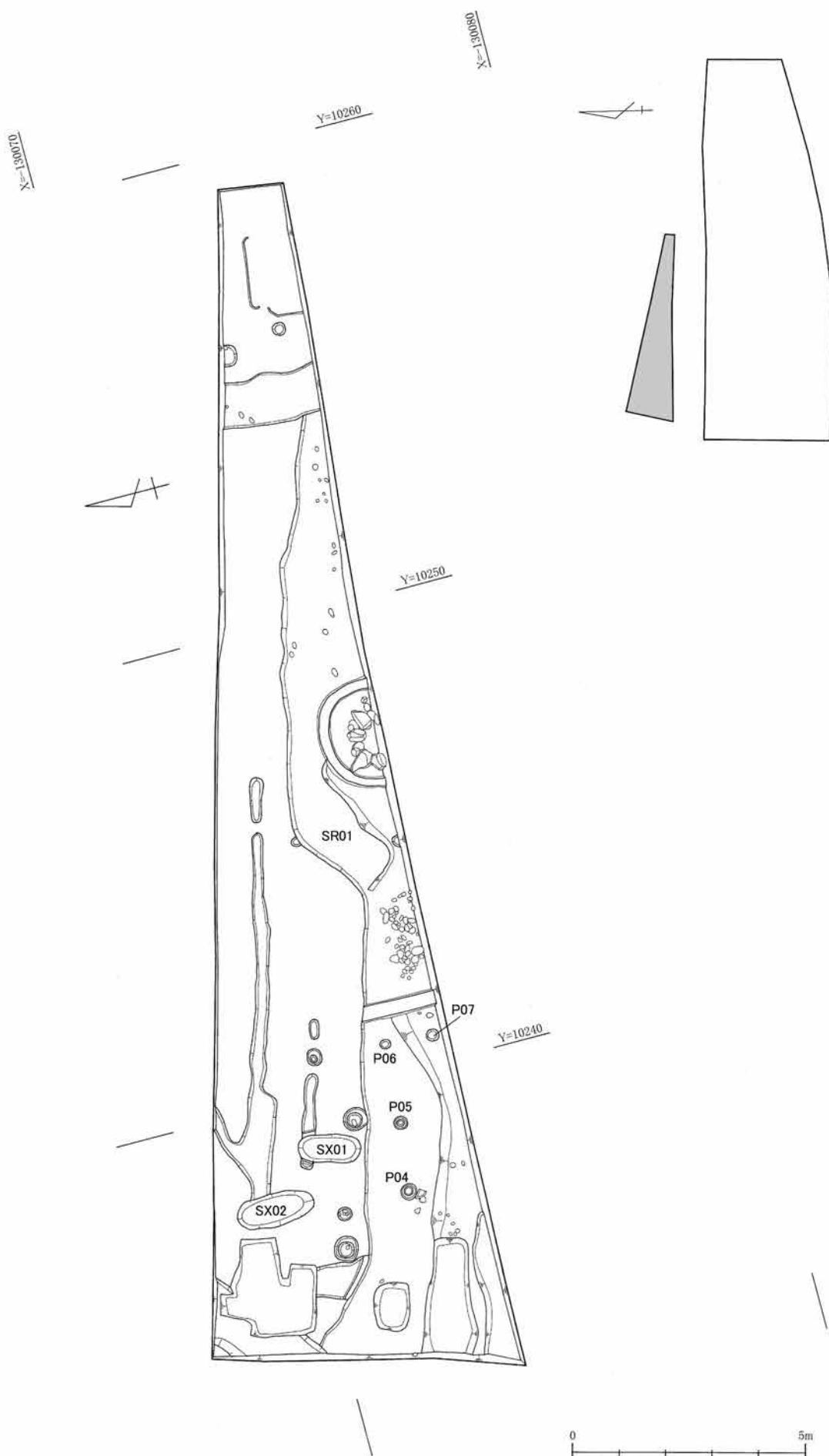


1区 SX02・03・SD01・02・04 平面図・断面図

図版 12

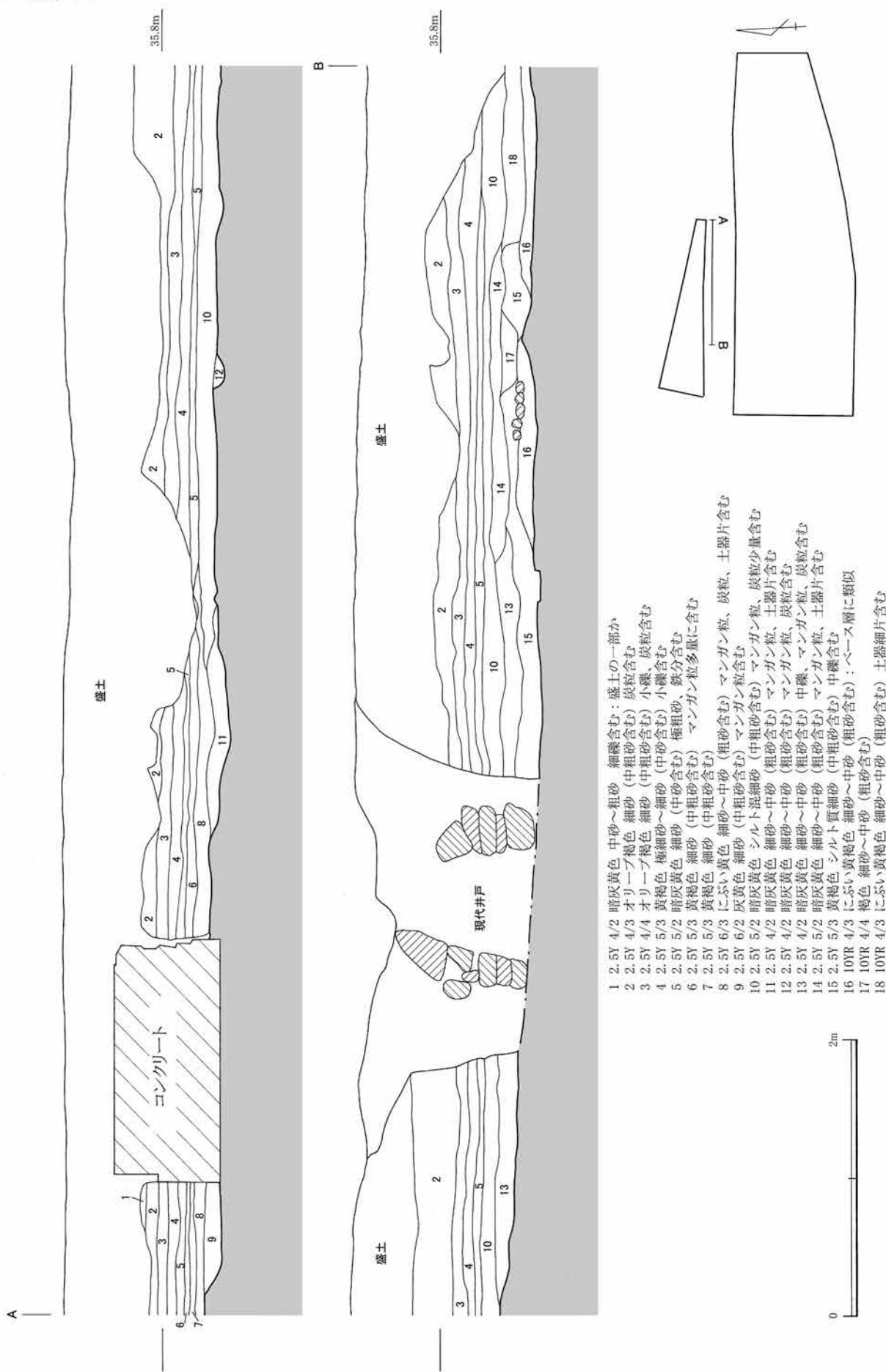


1 区 SD05 ~ 14 断面図

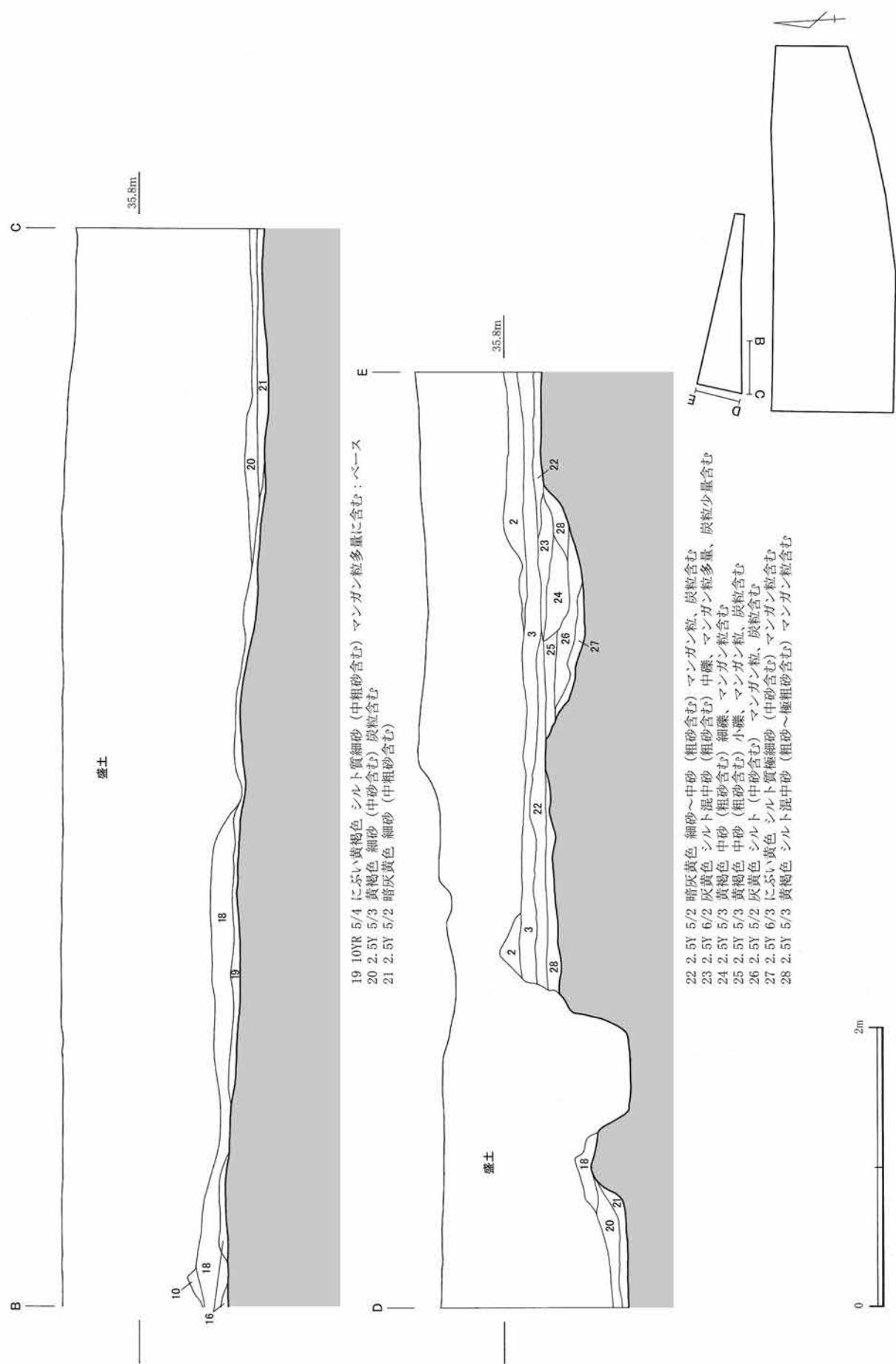


2区遺構平面図

図版 14

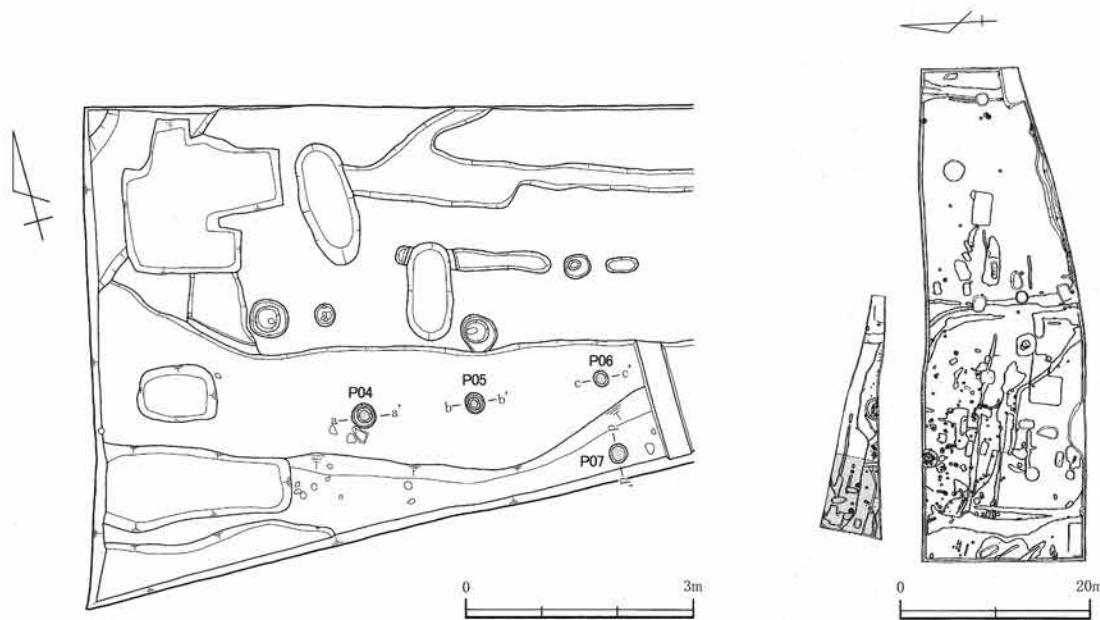


2区南壁断面図①



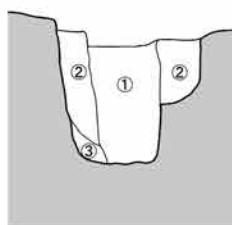
2区南壁断面図②・西壁断面図

図版 16



P04
a —————

35.4m a'



- ① 2.5Y 5/3 黄褐色 細砂（中砂含む）細礫含む
- ② 10YR 5/4 にぶい黄褐色 細砂（中粗砂含む）炭粒含む
- ③ 10YR 5/3 にぶい黄褐色 極細砂（粗砂～極粗砂含む）炭粒含む

P05
b —————

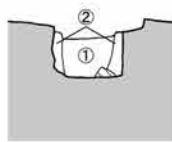
35.4m b'



- ① 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂～中砂（粗砂含む）炭粒含む
- ② 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂～中砂（粗砂含む）小礫、炭粒含む

P06
c —————

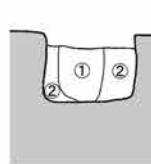
35.4m c'



- ① 10YR 5/4 にぶい黄褐色 極細砂（中砂～粗砂含む）マンガン粒含む
- ② 10YR 5/3 にぶい黄褐色 極細砂（中砂含む）

P07
d —————

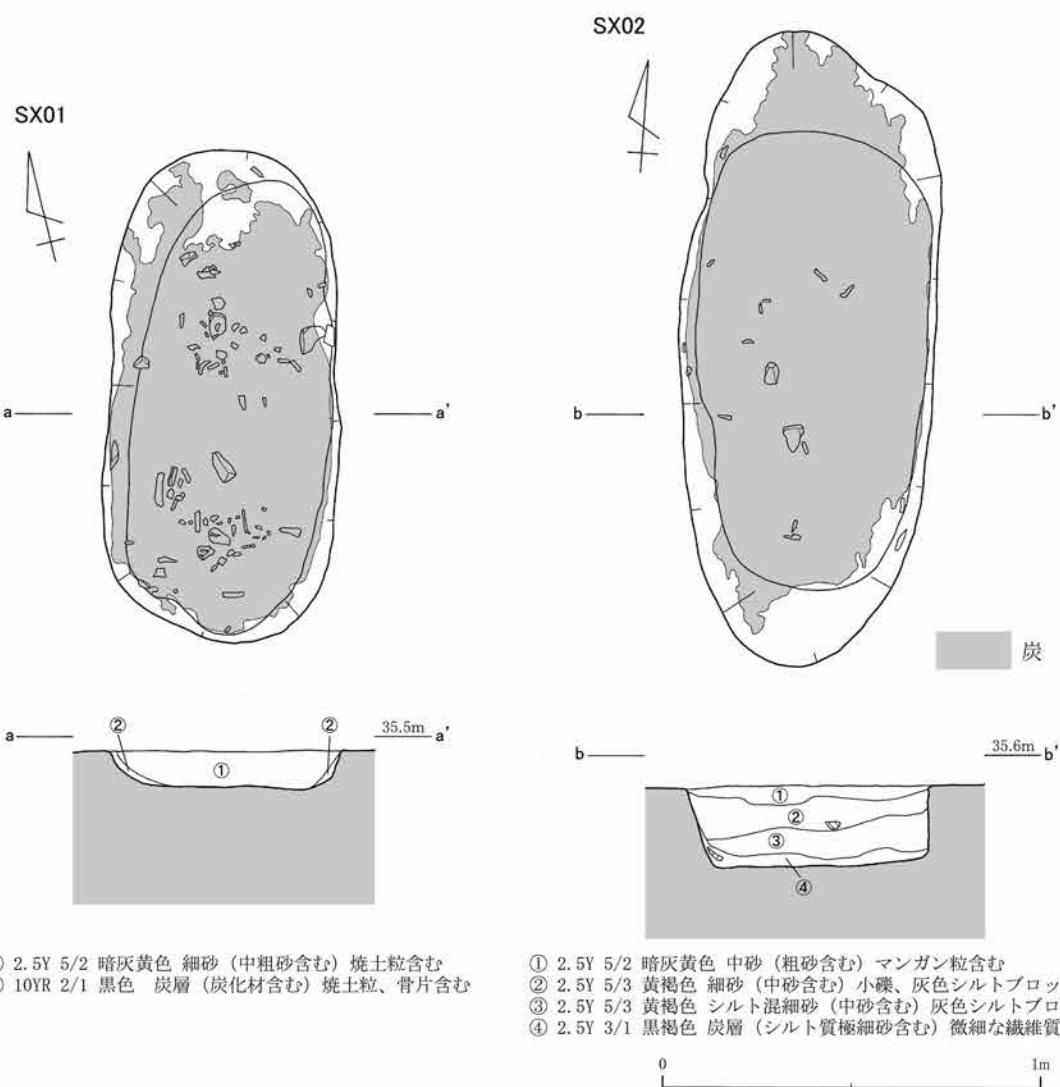
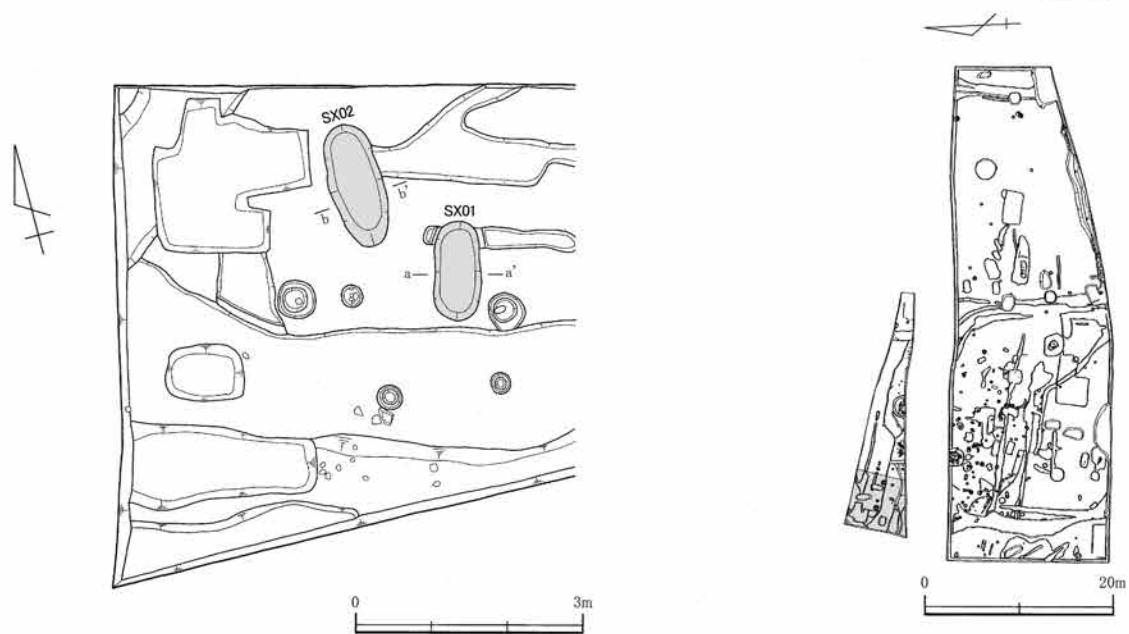
35.3m d'



- ① 10YR 5/4 にぶい黄褐色 シルト質極細砂（中砂含む）小礫含む
- ② 10YR 5/3 にぶい黄褐色 シルト質極細砂（中砂含む）

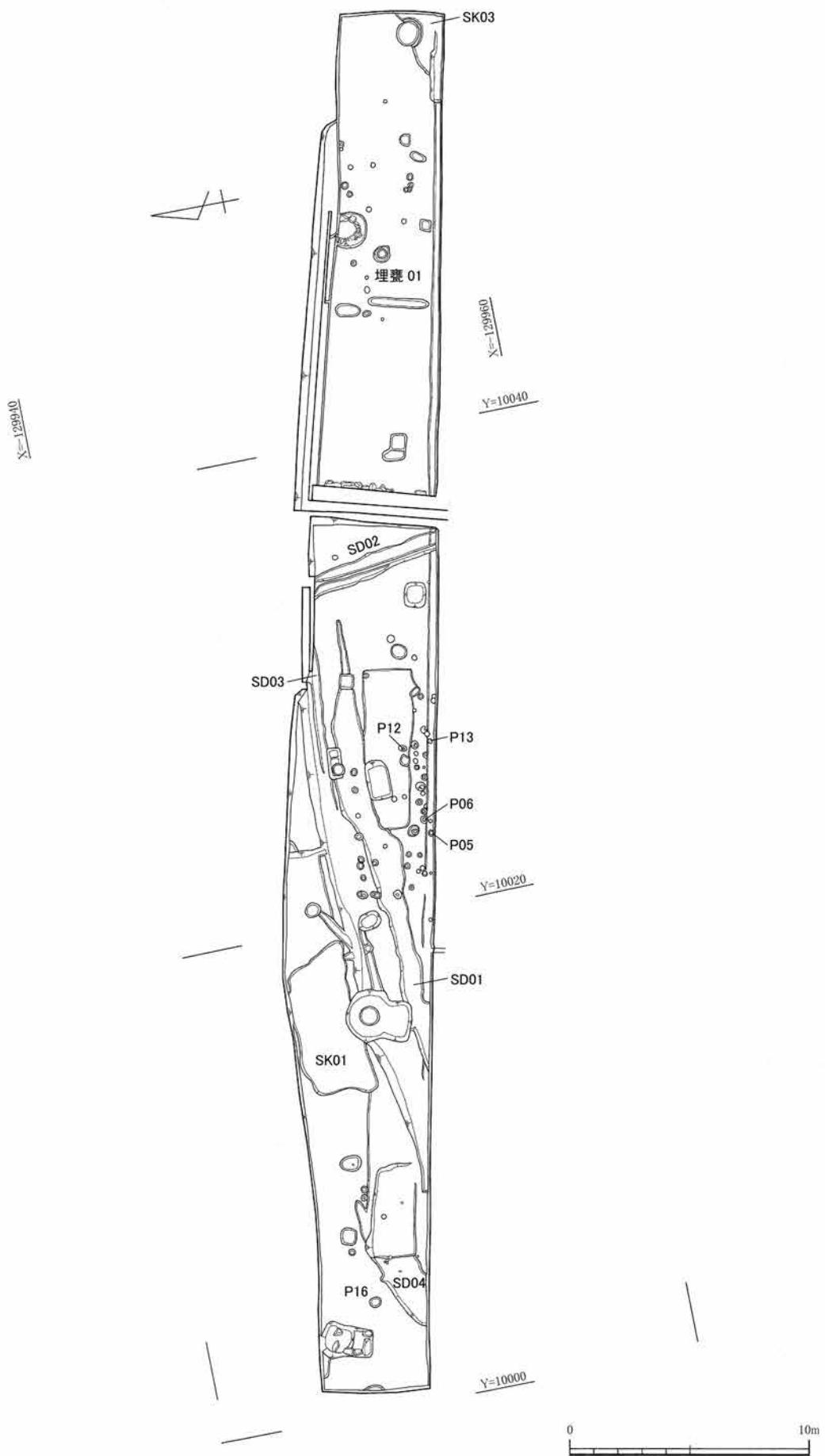
0 1m

2区 P04～07 平面図・断面図

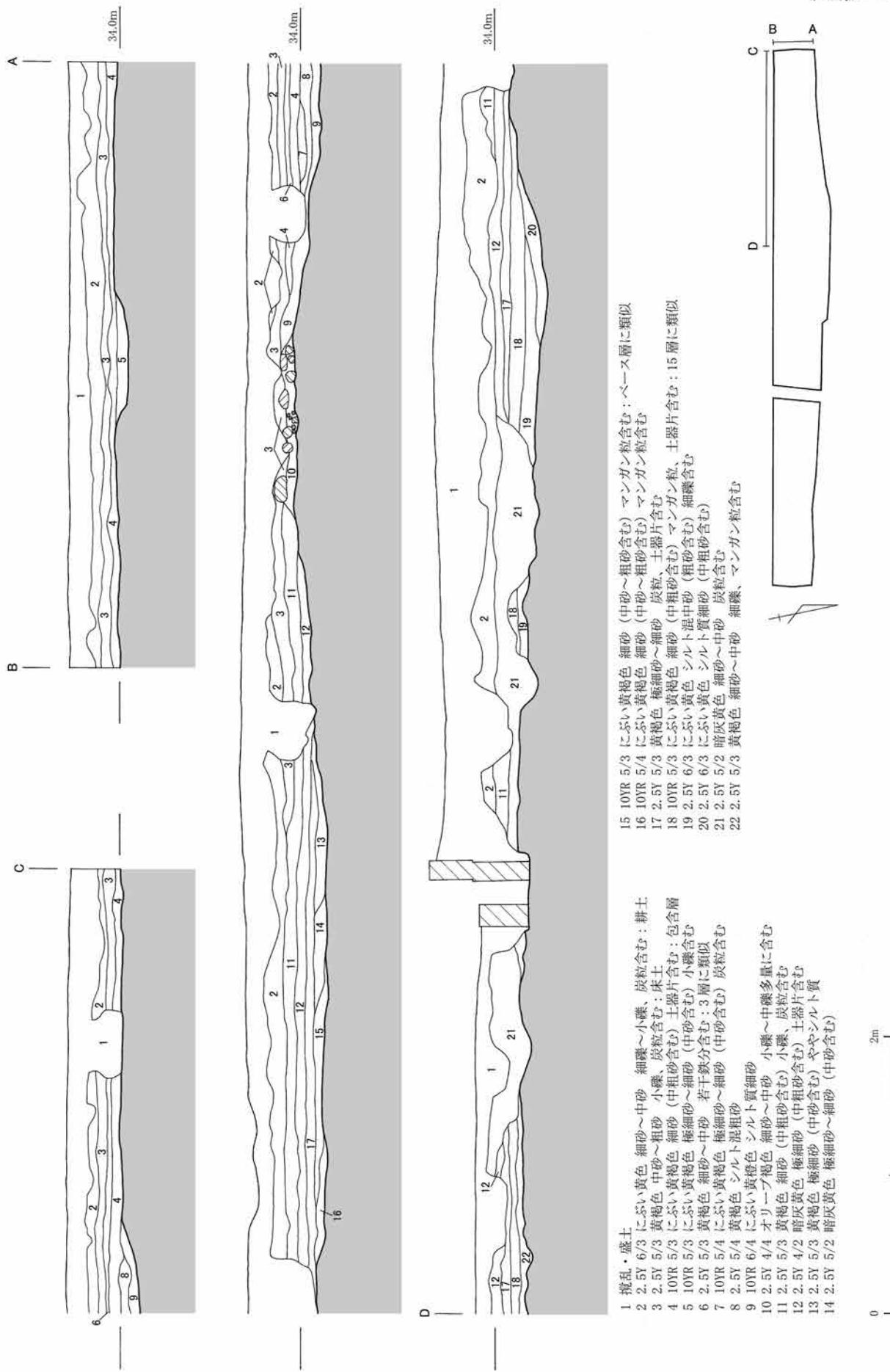


2区 SX01・02 平面図・断面図

図版 18

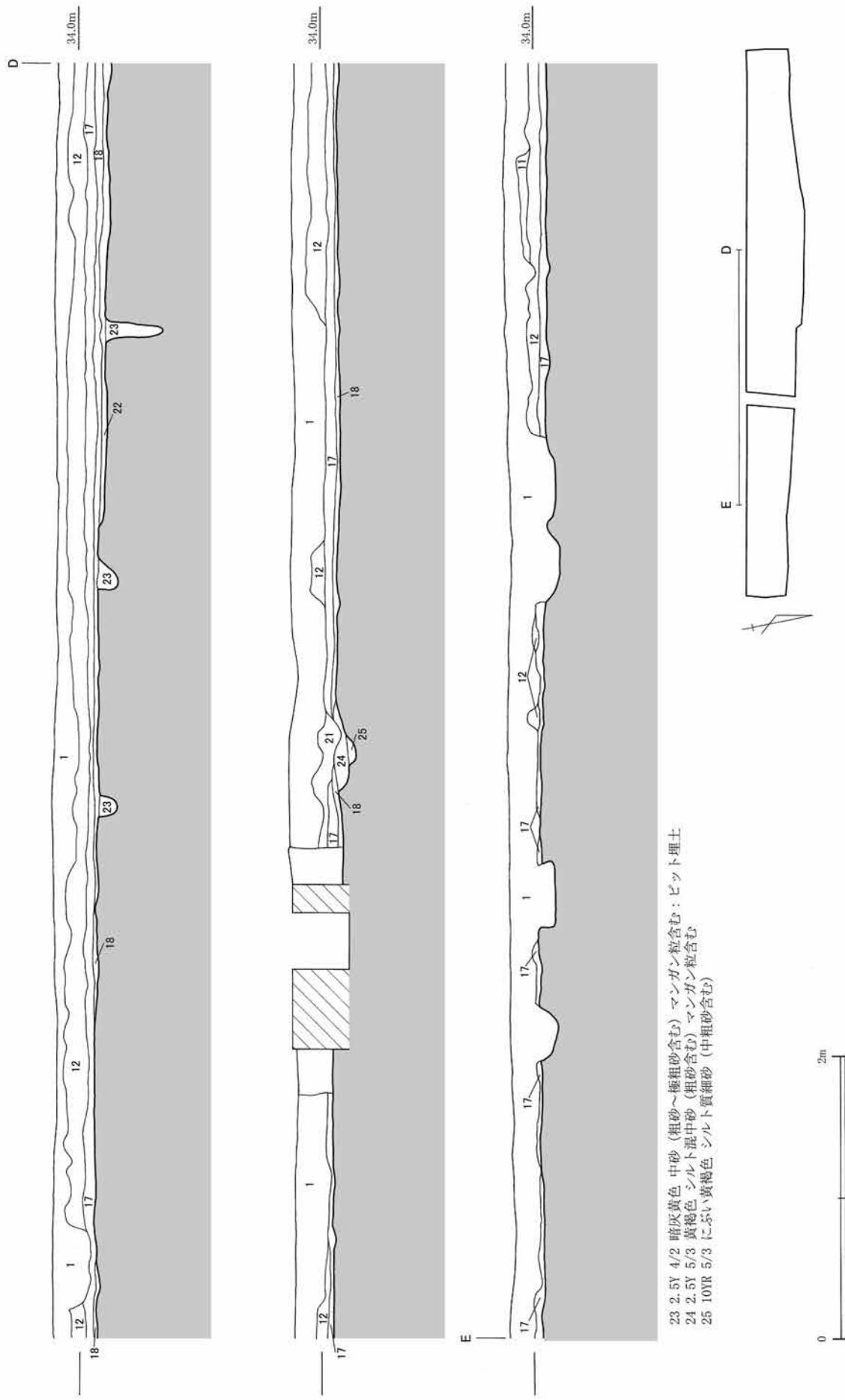


3区遺構平面図

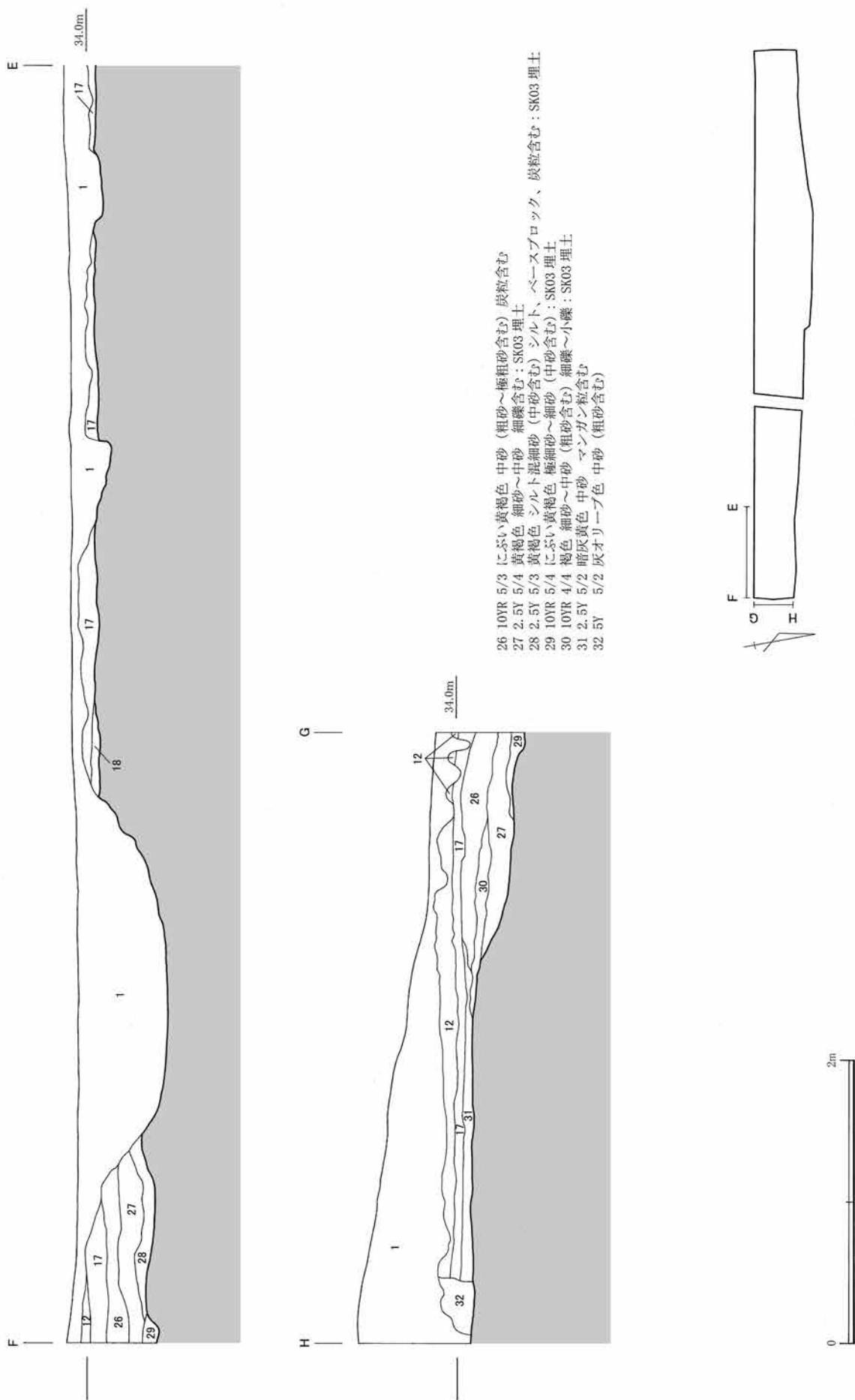


3区西壁断面図・南壁断面図①

図版 20

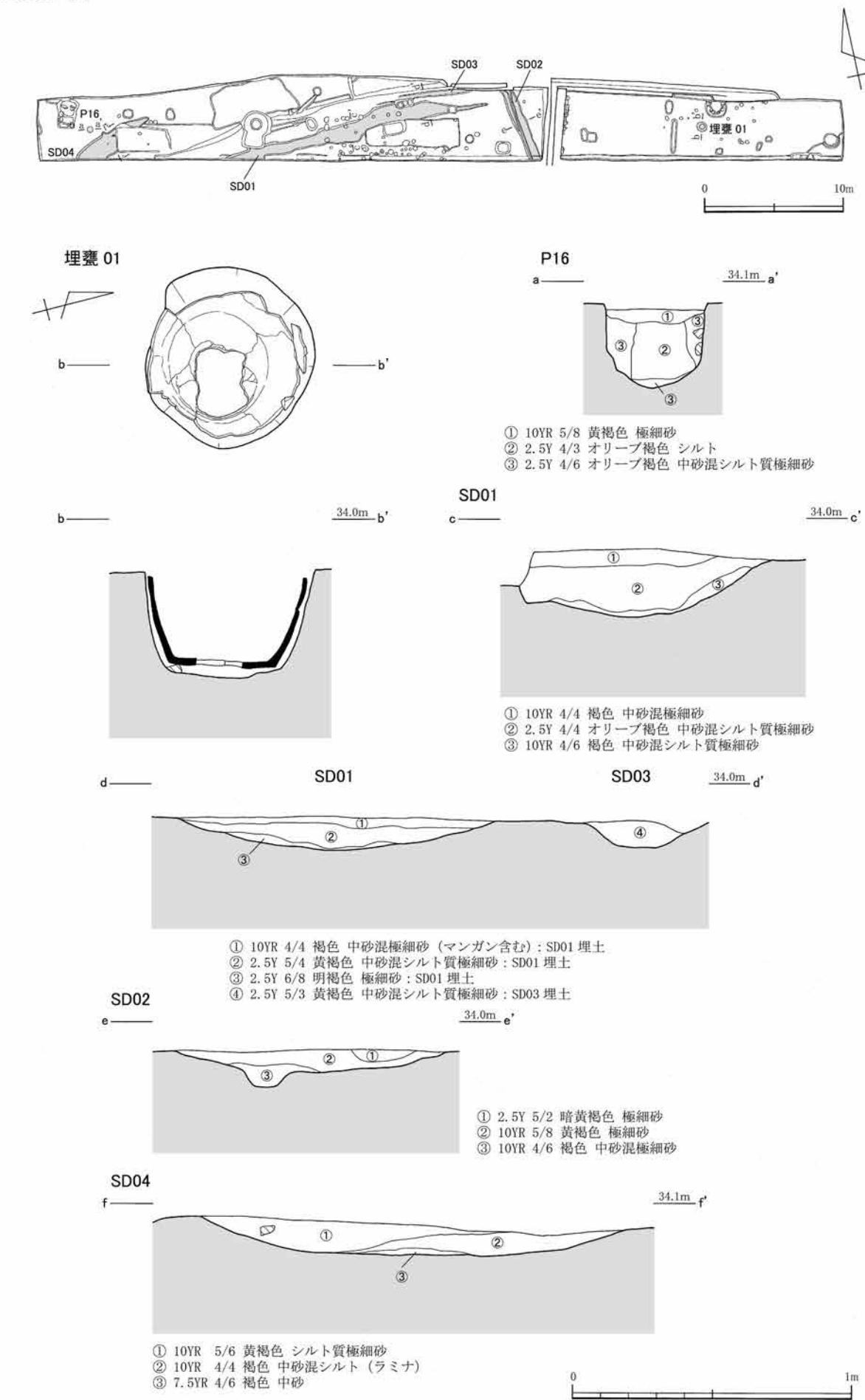


3区南壁断面図②

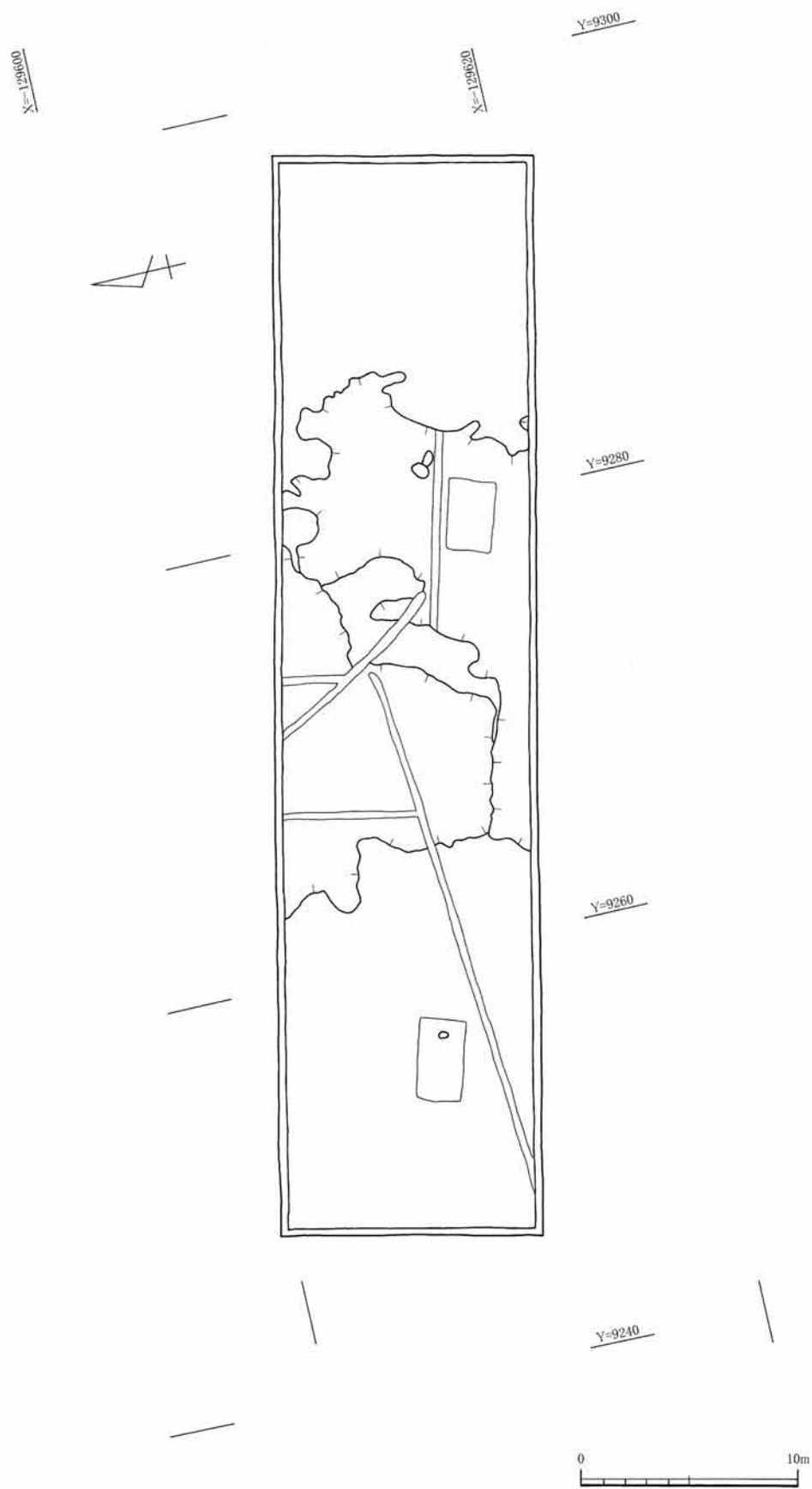


3区南壁断面図③・東壁断面図

図版 22

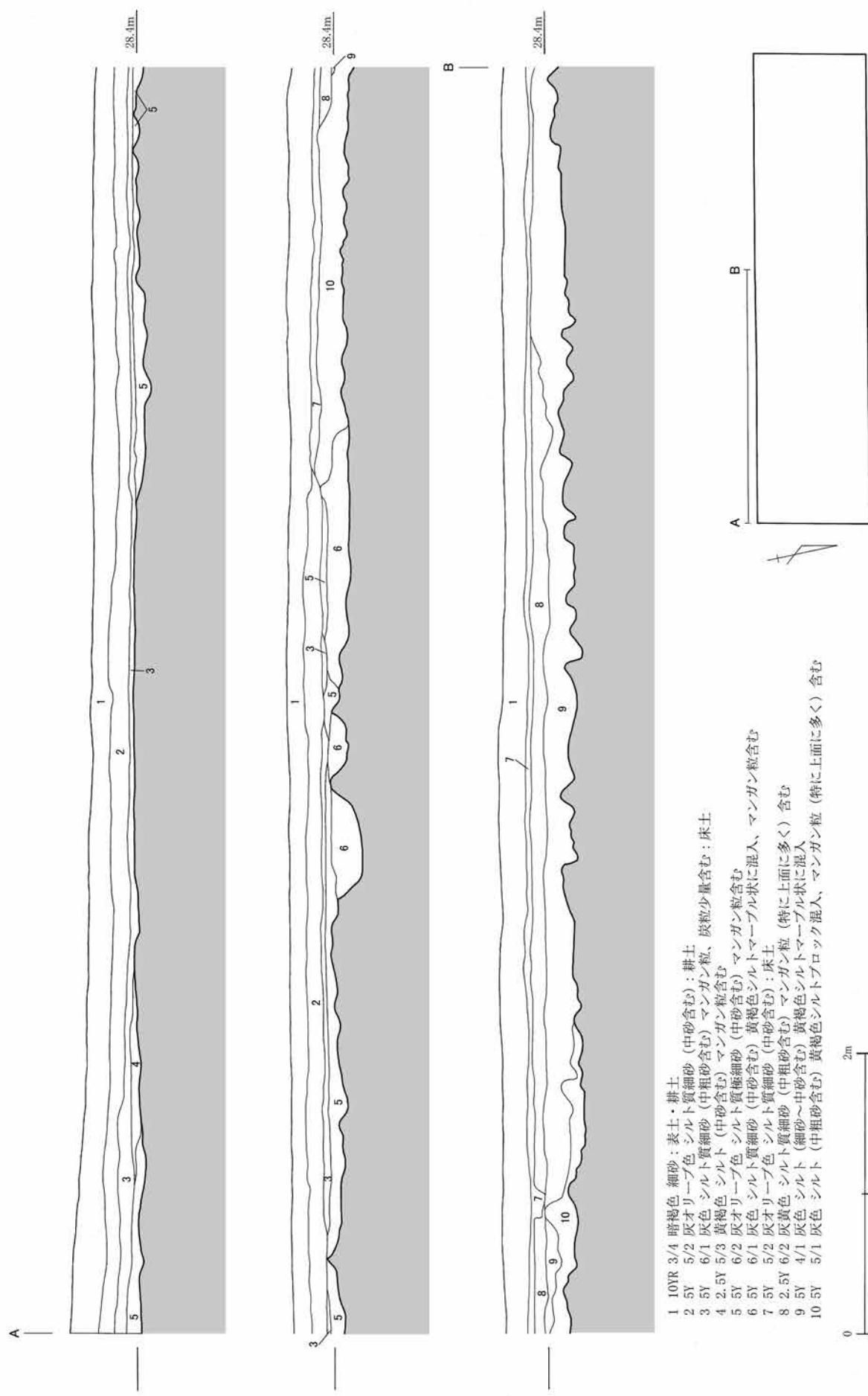


3 区埋壟 01・P16・SD01～04 平面図・断面図



宮ノ前遺跡遺構平面図

図版 24

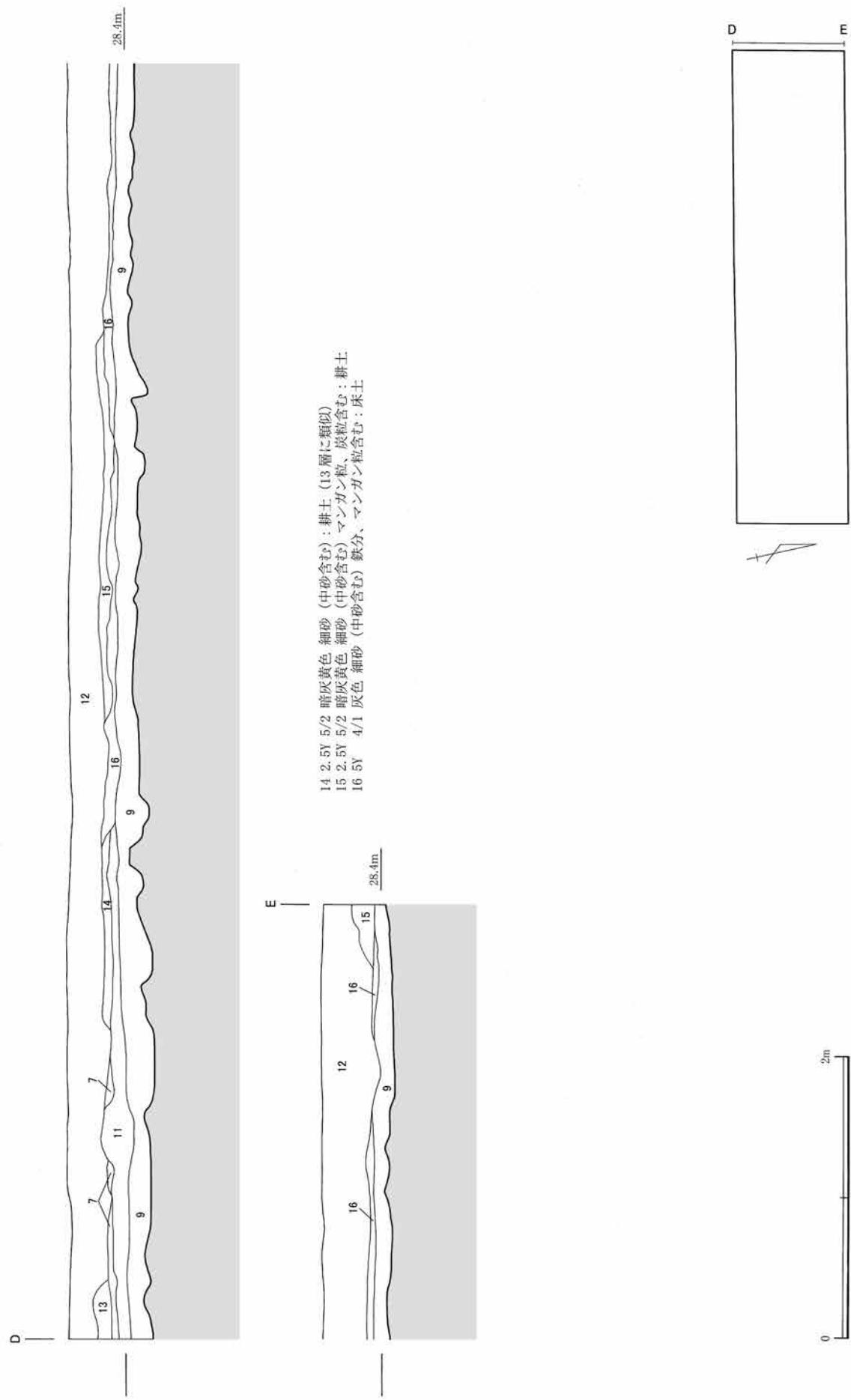


南壁断面図①



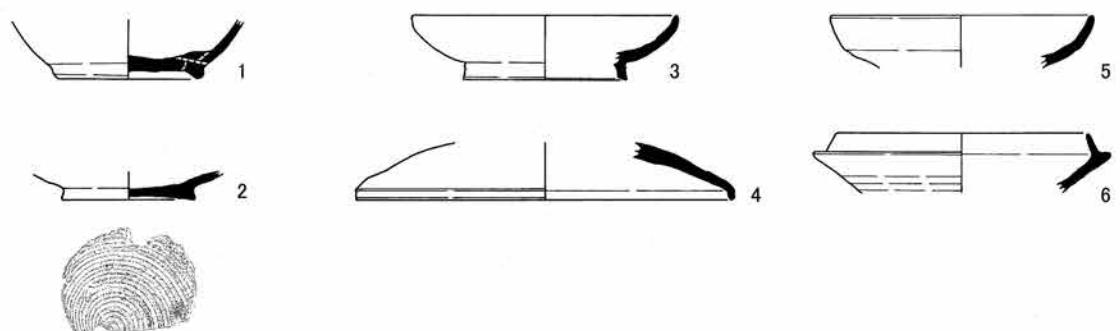
南壁断面図②

図版 26

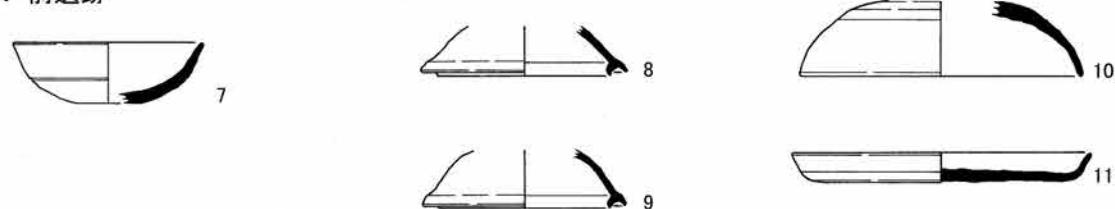


西壁断面図

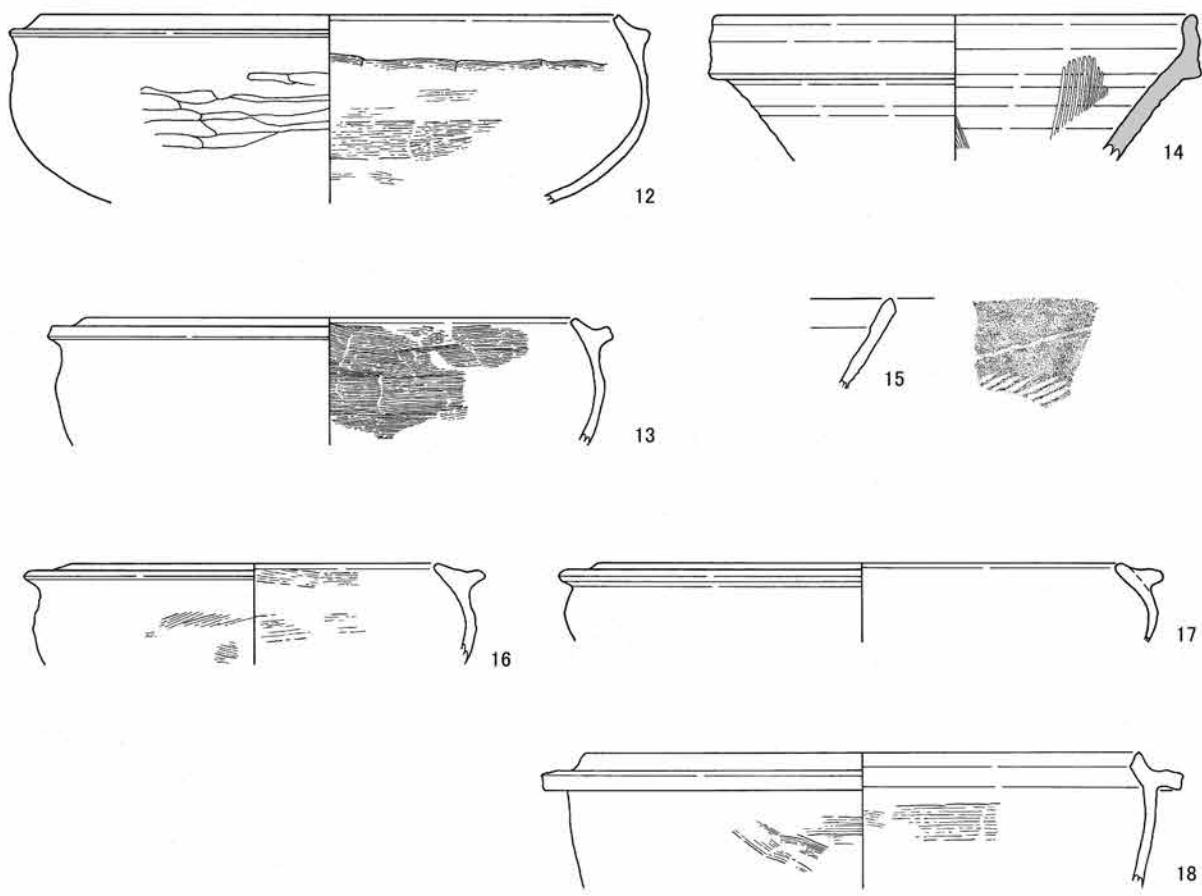
確認調査



宮ノ前遺跡

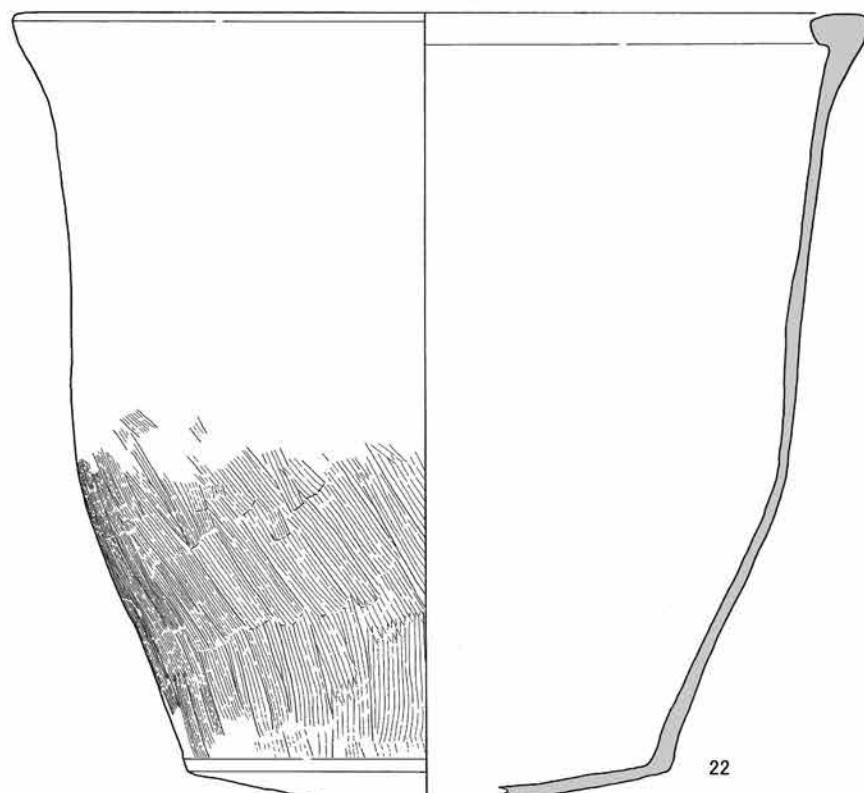
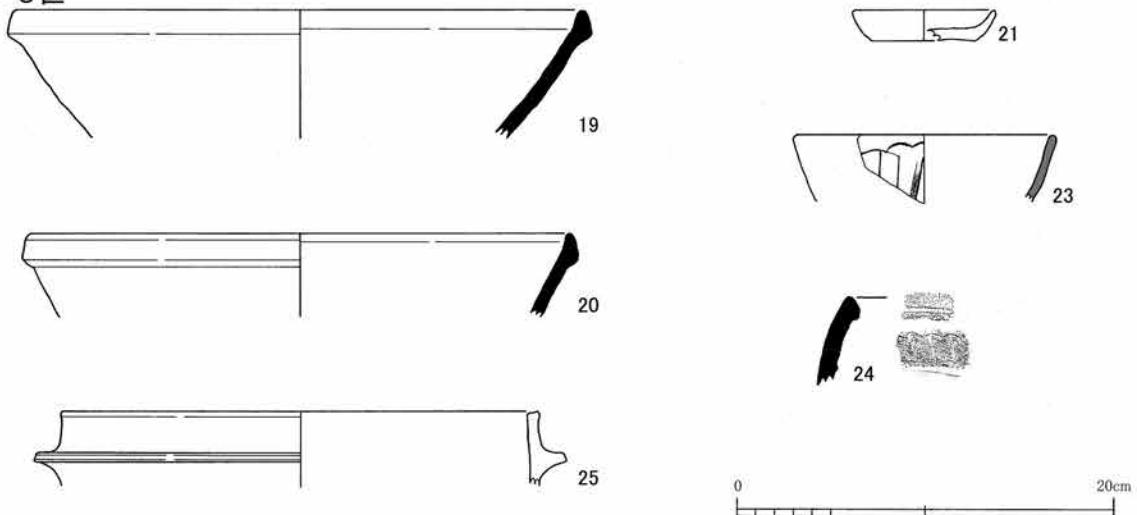


1区



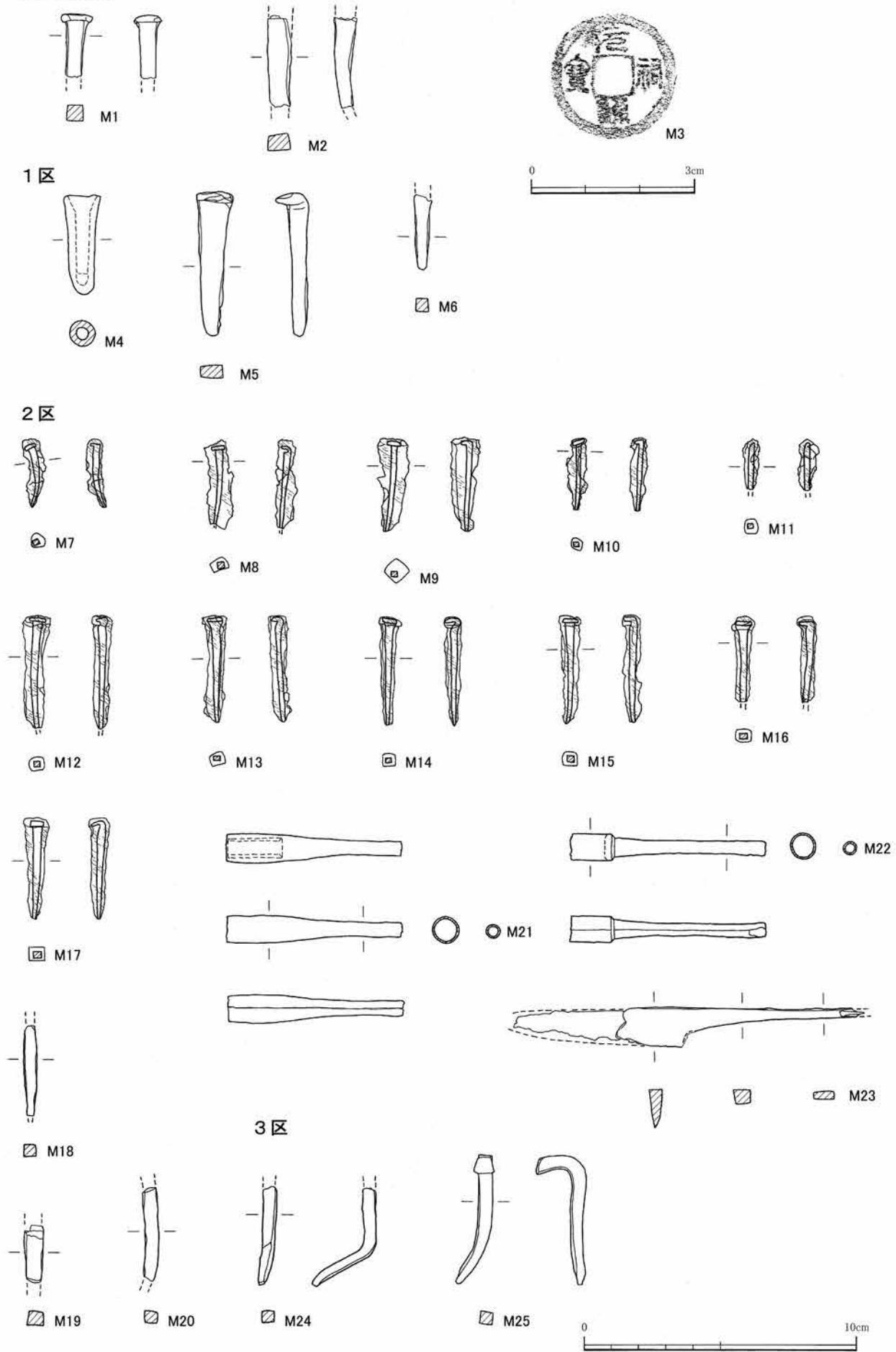
図版 28

3区



出土土器②

宮ノ前遺跡



出土金属器

写真図版

写真図版 1



西柄遺跡 1区・2区（上空から）



1区・2区全景（南東から）

写真図版 2



1区全景（西から）



1区全景（東から）

写真図版 3



1区北壁（南東から）



1区西壁（東から）



1区北西侧柱穴群（西から）

写真図版 4



上左 : P07 遺物出土状況（北から）

上右 : P09 断面 b-b'（南から）

中左 : P10 断面 c-c'（東から）

中右 : P11・12 断面 d-d'（南から）

下左 : P02 断面 a-a'（南から）



SK02 断面 a-a'（南西から）



SK02 断面 b-b'（西から）

写真図版 5



SK03 断面 A-A' (西から)



SK03内土坑断面 B-B' (西から)



SK03 完堀状況 (西から)



SK03 東半部焼土・炭化材検出状況 (南から)



SK03 内土坑完堀状況 (南から)

写真図版 6



SK04 断面 (西から)



SK05 断面 c-c' (西から)



SK06 断面 d-d' (西から)



SK08 断面 f-f' (西から)



上左 : SX02 断面 g-g' (北から)

上右 : SX02 完堀状況 (北から)

下左 : SX02 釘出土状況 (北から)



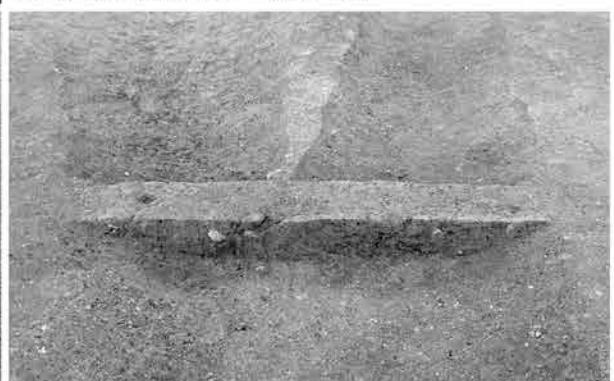
写真図版 7



左 : SX03 断面 h-h' (西から)



SD01 断面 i-i' (南から)



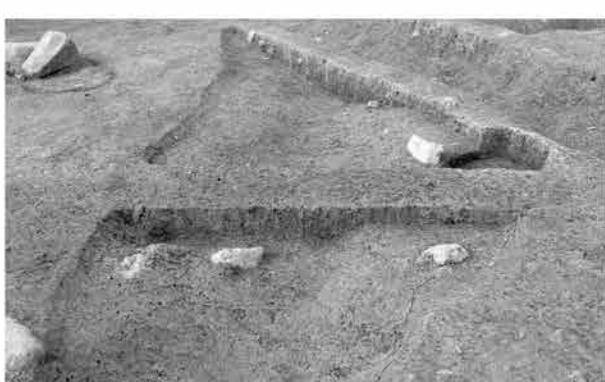
SD01・02 断面 k-k' (南から)



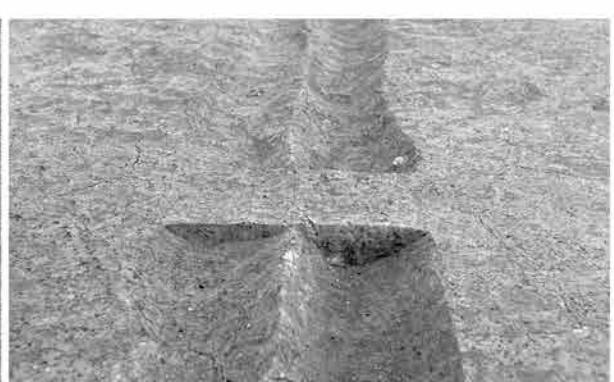
SD02 断面 j-j' (南から)



SD04 断面 l-l' (西から)



SD05 断面 n-n' (東から)



SD06 断面 o-o' (東から)

写真図版 8



SD06・07 断面 p-p' (東から)



SD08 断面 s-s' (南から)



SD08 断面 r-r' (東から)



SD09 断面 t-t' (南から)



SD10 断面 u-u' (南から)



SD12 断面 w-w' (南から)



SD13・14 断面 x-x' (南から)



2区全景（西から）

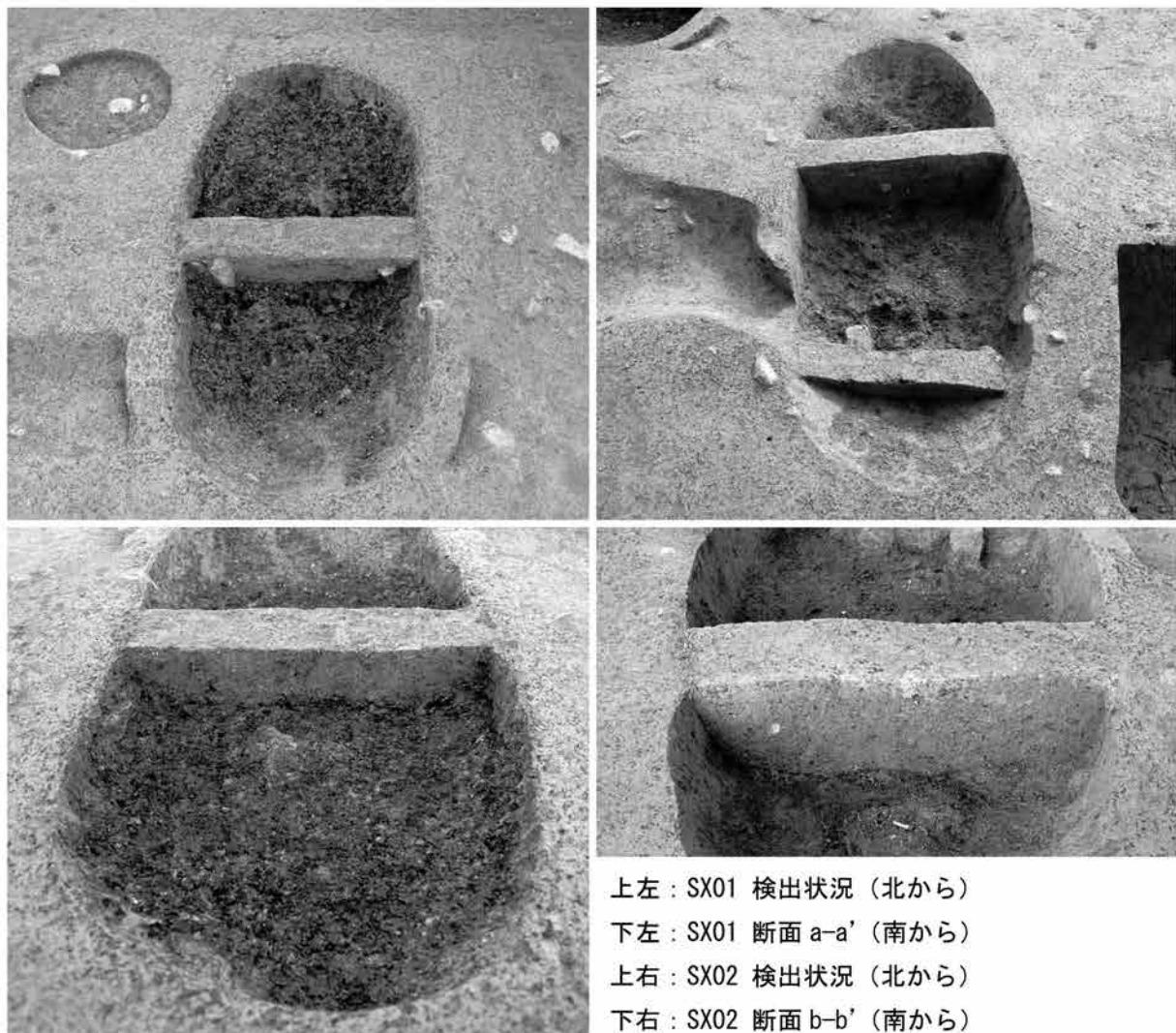


2区南壁（北西から）



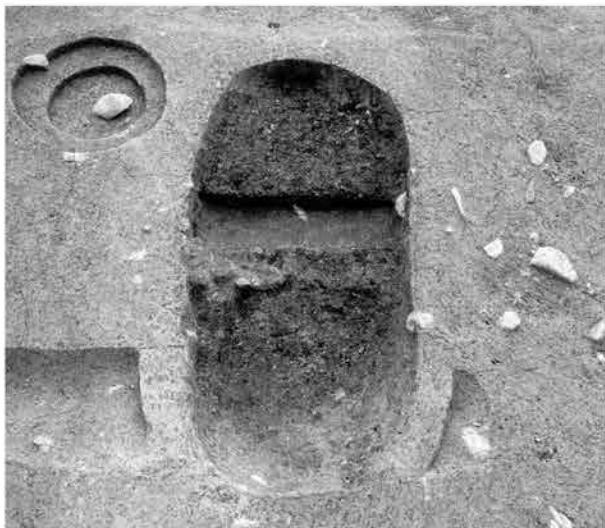
2区西壁（東から）

写真図版 10



SX01・02 検出状況（北から）

写真図版 11



SX01 検出状況（北から）



SX02 検出状況（北から）



SX01・02 完堀状況（北から）



SX01 完堀状況（北から）



SX02 完堀状況（北から）

写真図版 12



SX01 骨・釘等出土状況（西から）



SX02 骨・釘等出土状況（東から）



P04 断面 a-a'（南から）



P05 断面 b-b'（南から）



P06 断面 c-c'（南から）

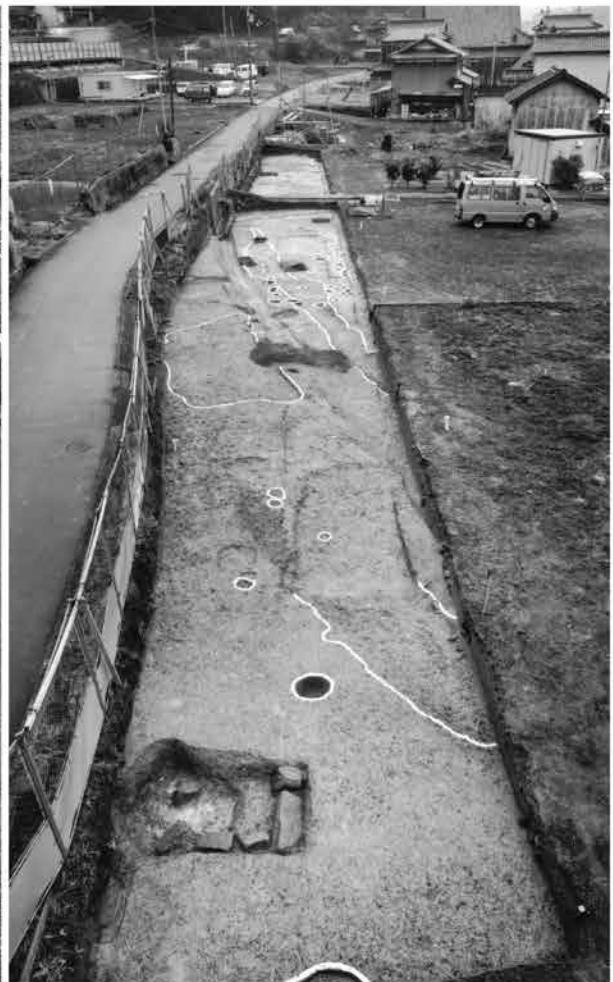


P07 断面 d-d'（西から）

写真図版 13



3区全景（東から）



3区全景（西から）



上：3区西壁（東から）

左：3区南壁（北東から）

写真図版 14



3区東壁（西から）



P16 断面 a-a'（南から）



埋甕 01（西から）



SD01 断面 c-c'（東から）



SD01・03 断面 d-d'（東から）



SD02 断面 e-e'（南から）



SD04 断面 f-f'（東から）

写真図版 15



宮ノ前遺跡 近景（上空から）



宮ノ前遺跡 全景（西から）

写真図版 16



南壁（北東から）



西壁（東から）



北壁暗渠断面（南から）



西柄遺跡 地元説明会①



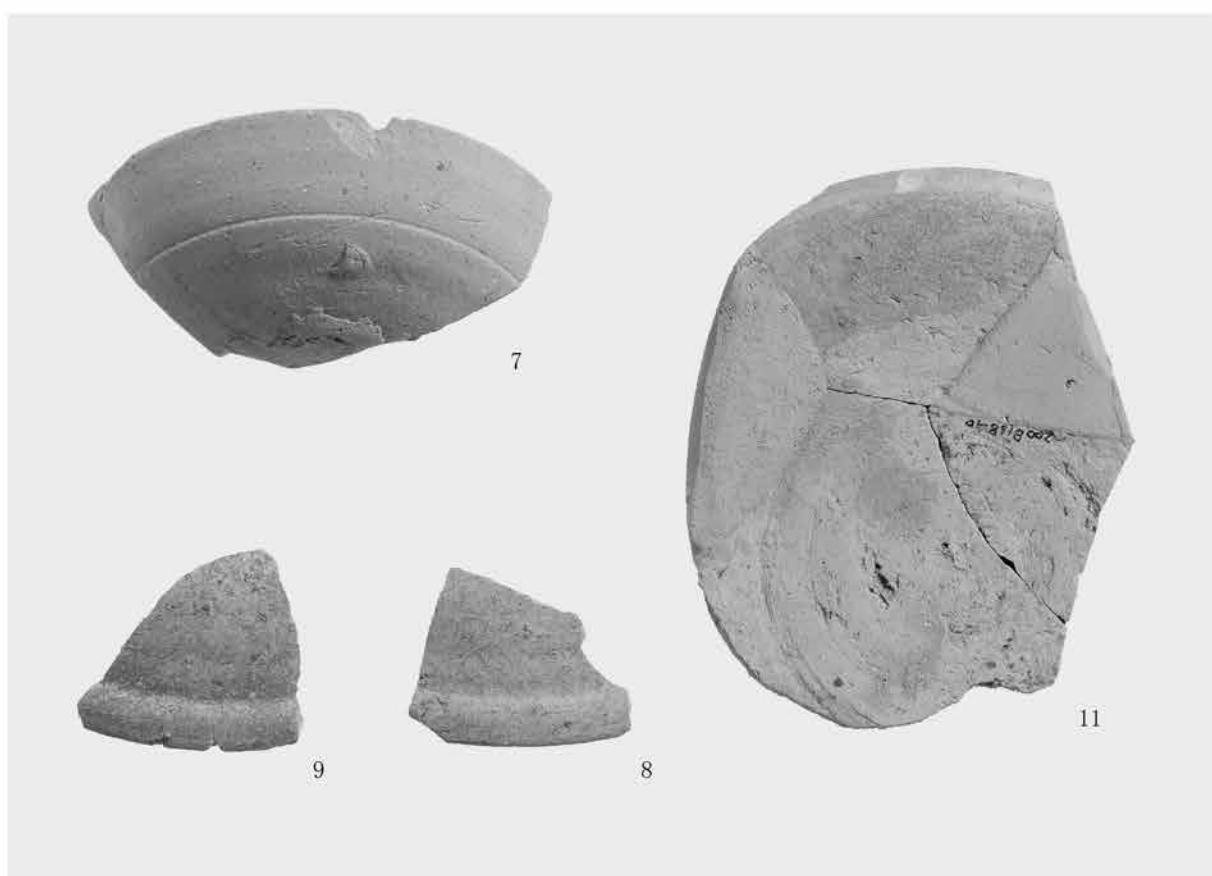
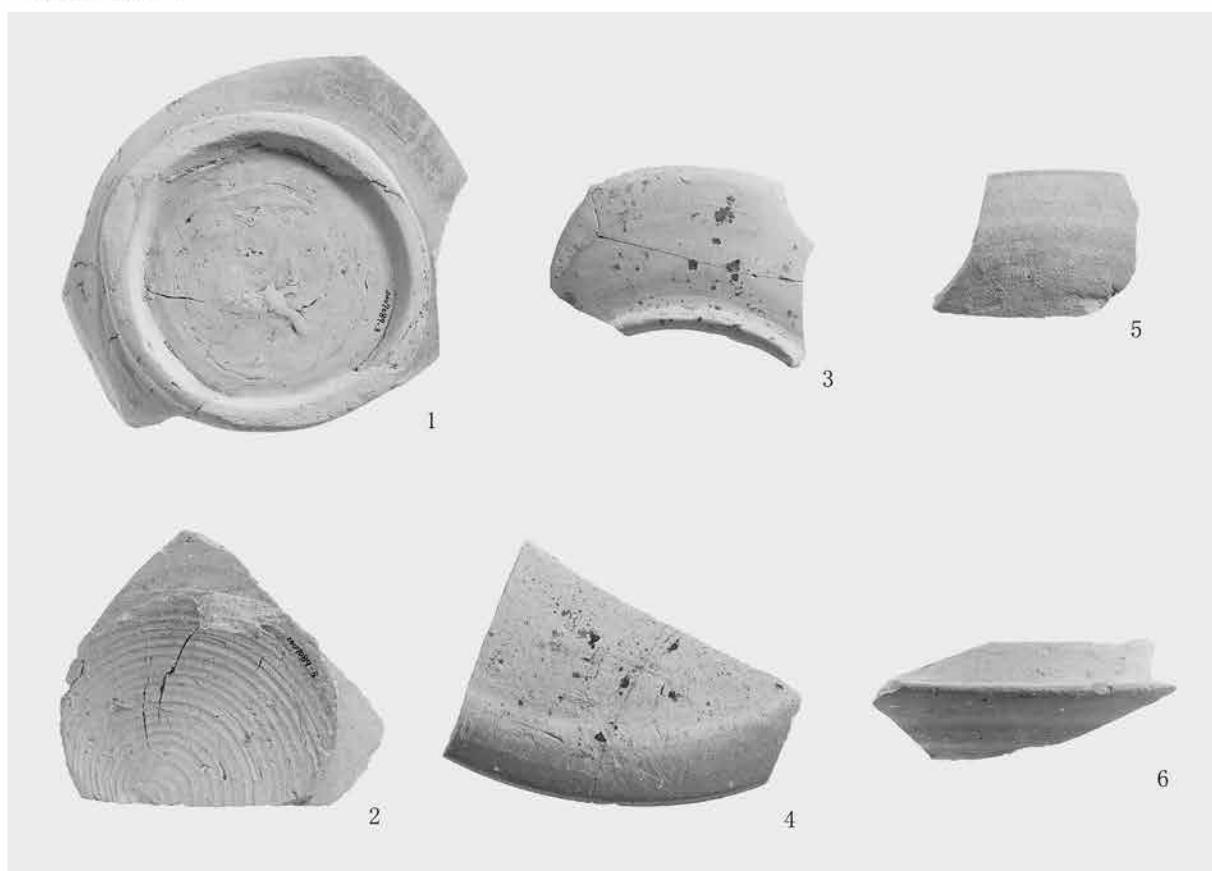
西柄遺跡 地元説明会②

写真図版 17



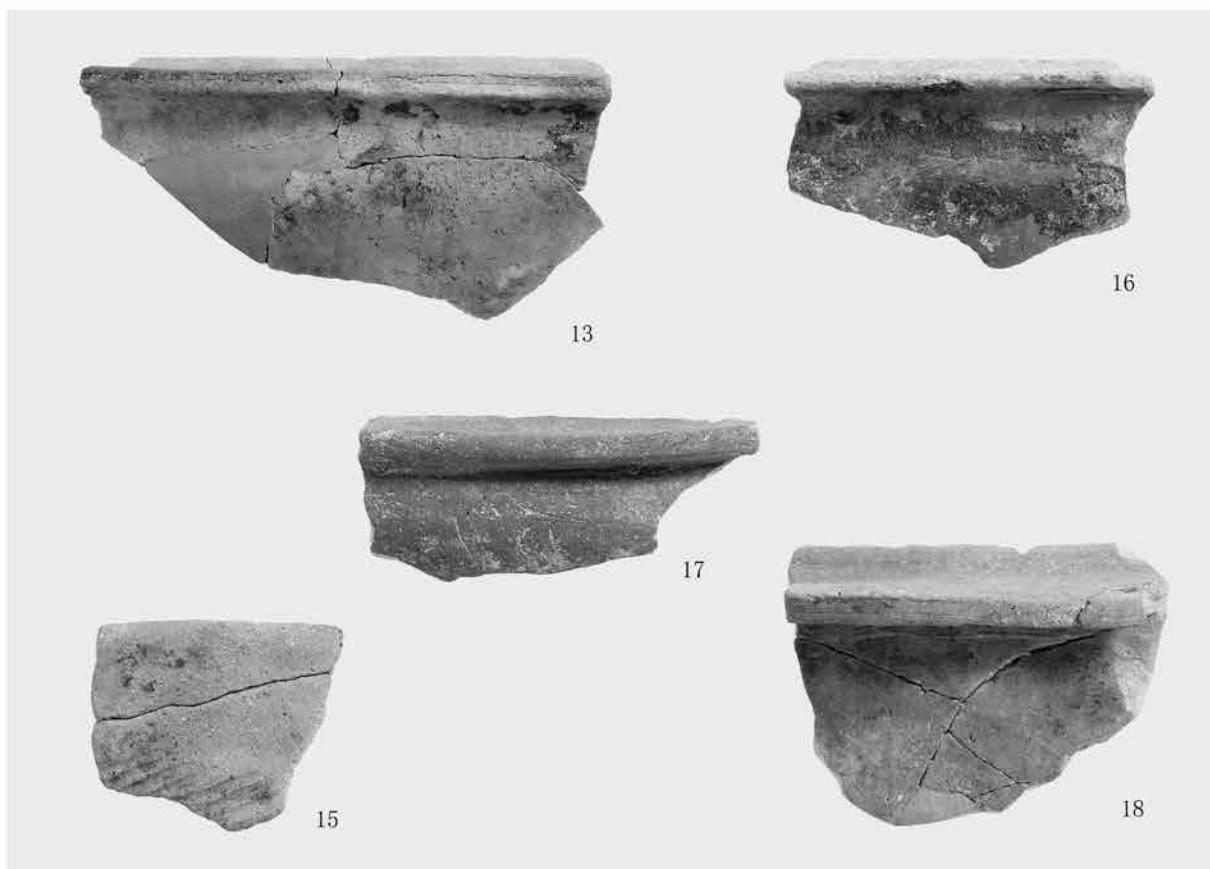
出土土器①

写真図版 18



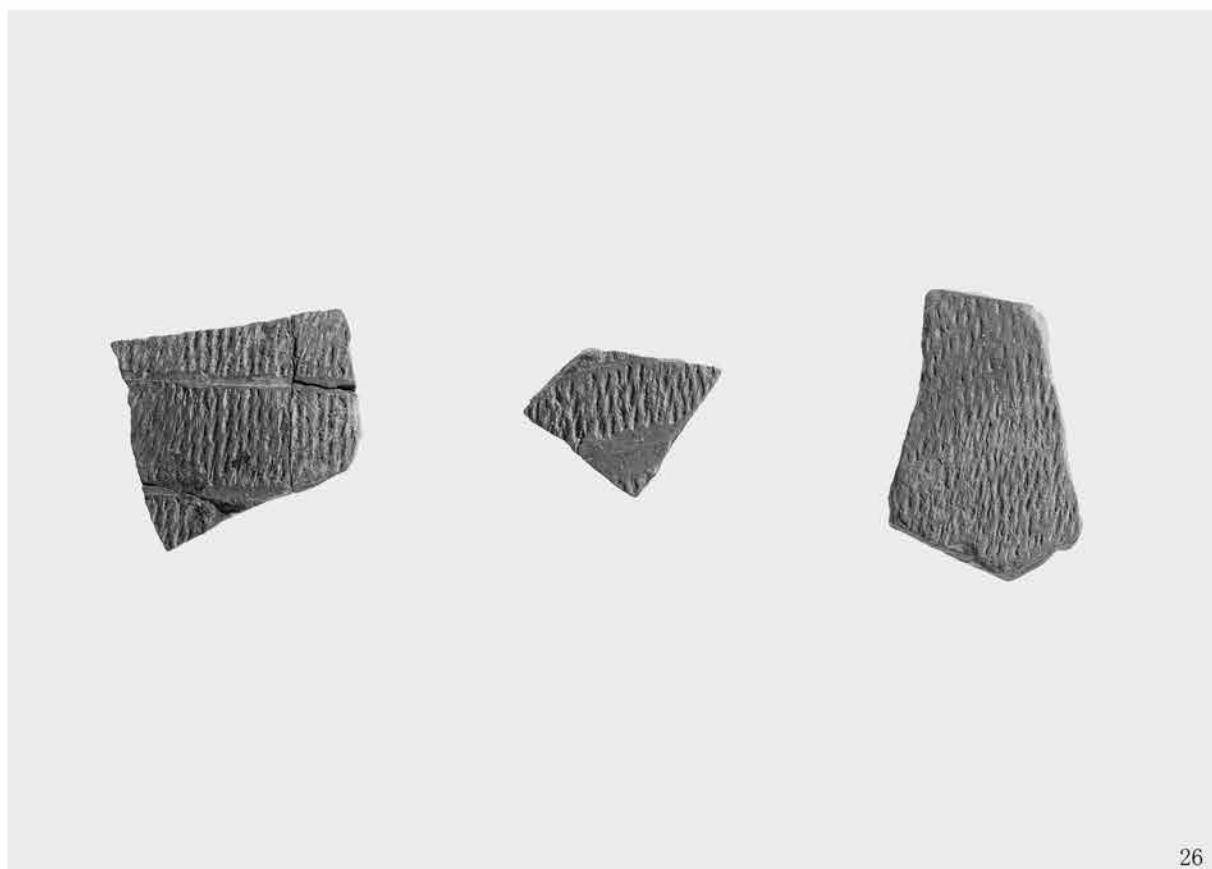
出土土器②

写真図版 19

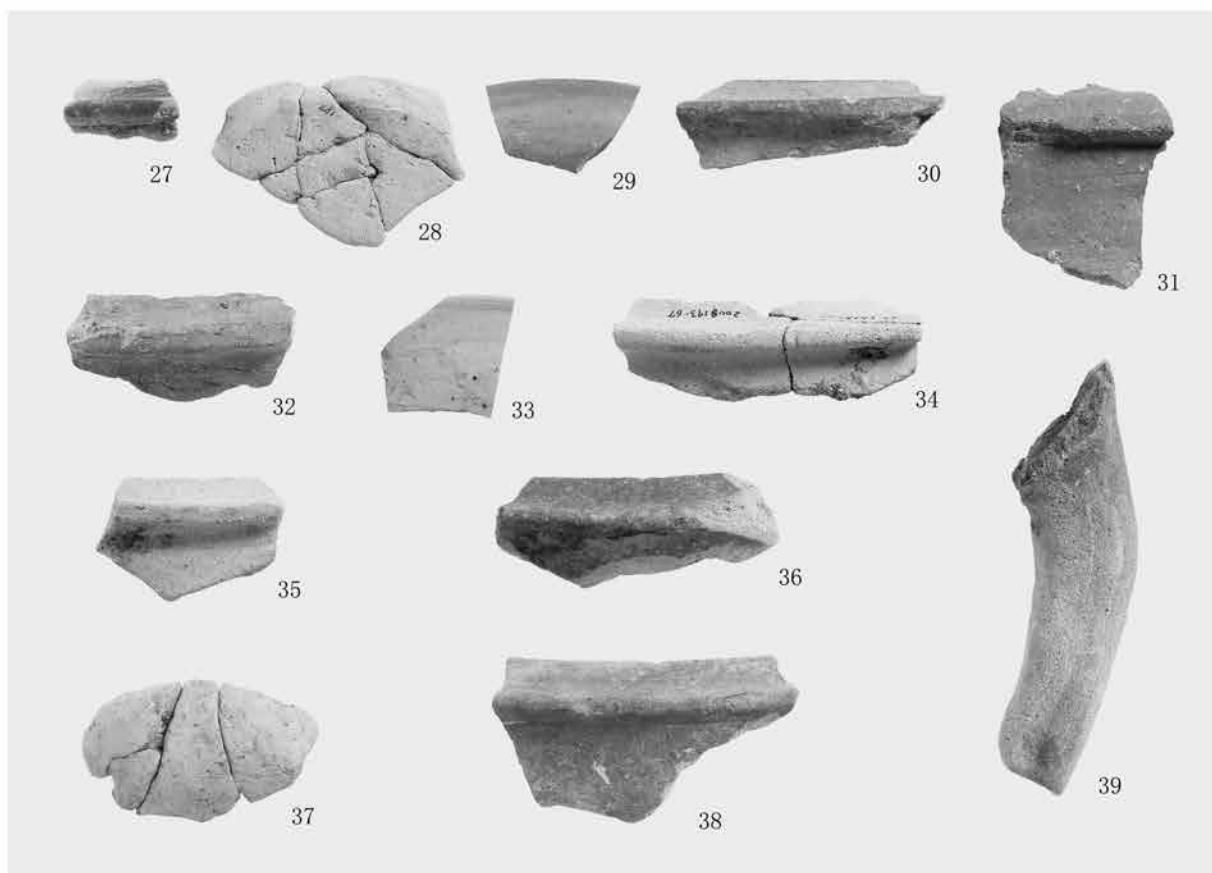


出土土器③

写真図版 20

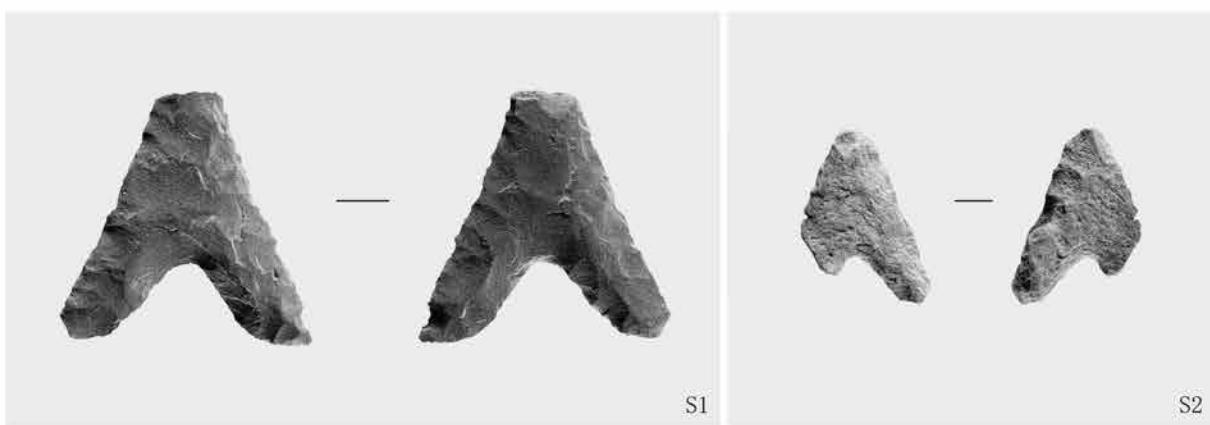
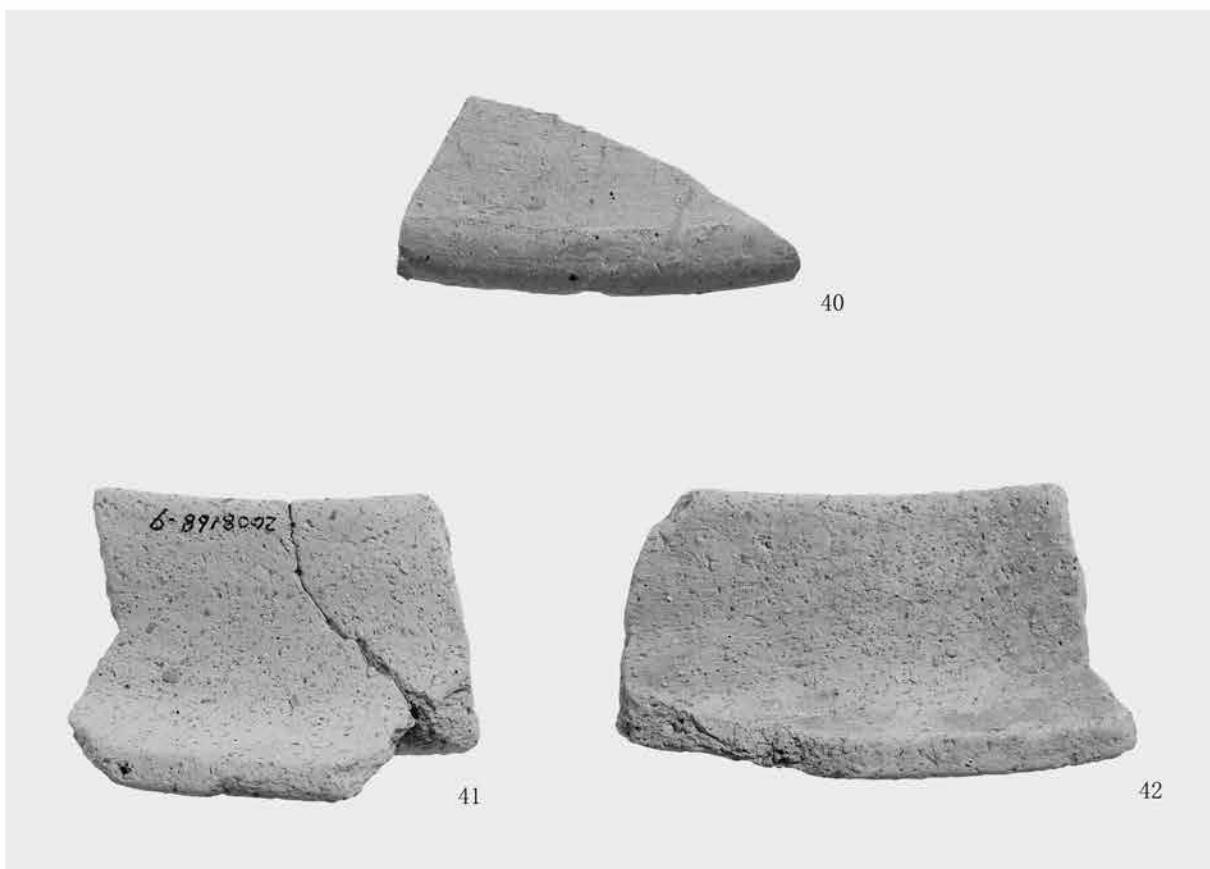


26



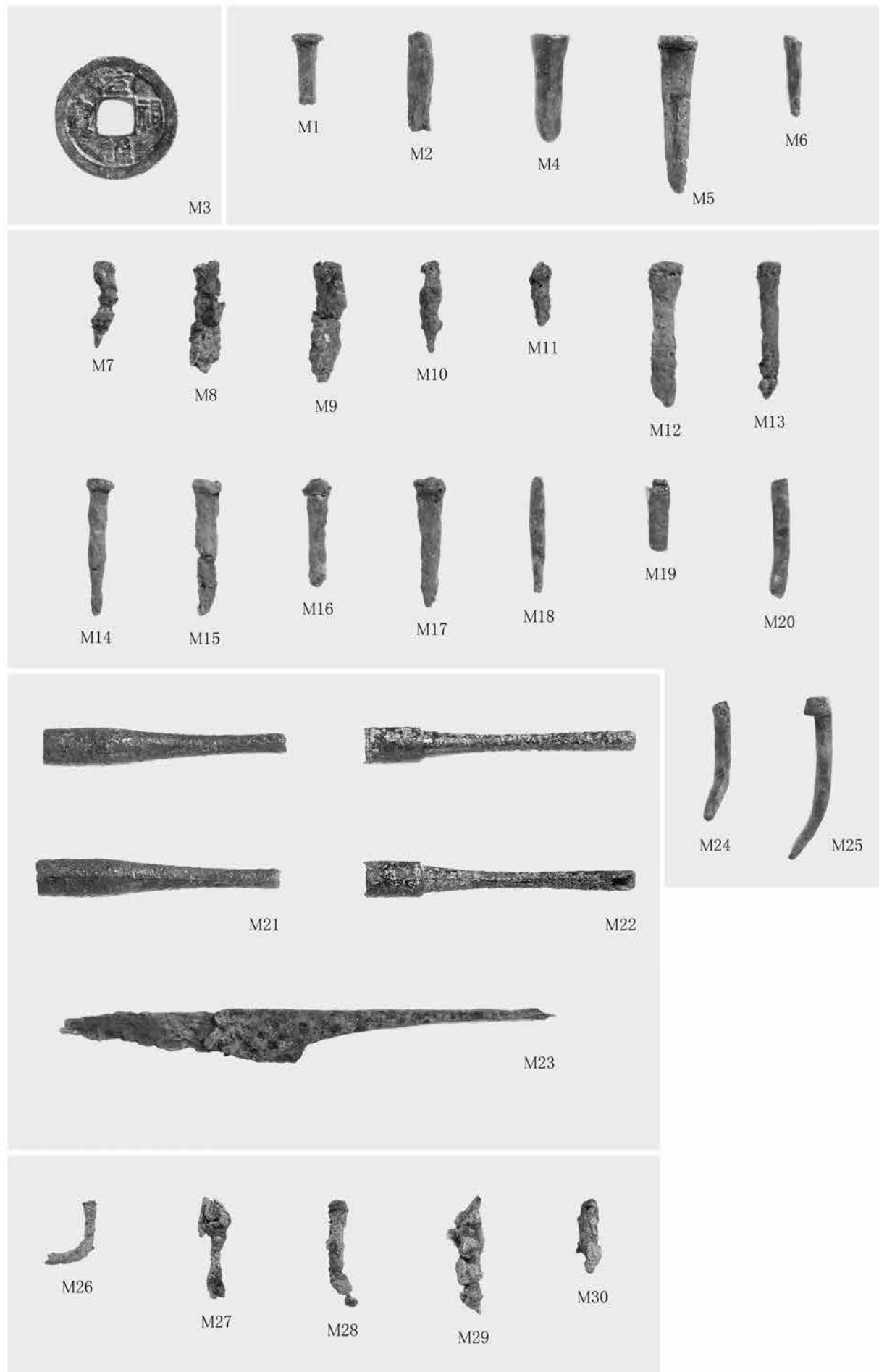
出土土器④

写真図版 21



出土土器⑤・出土石器

写真図版 22



出土金属器

兵庫県文化財調査報告 第456冊

相生市

西柄遺跡・宮ノ前遺跡

—一般国道2号相生有年道路事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成26（2014）年2月26日 発行

編集：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号
(兵庫県立考古博物館内)

発行：兵庫県教育委員会
〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印刷：株式会社クレアチオ
〒672-8071 兵庫県姫路市飾磨区構4丁目140番地 baseAビル
TEL 079-233-9080
